

令和7年度 大気汚染状況測定結果

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
環境監視部門 大気圏係

大気汚染状況に係る報告事項

1. 自動測定局における常時監視測定結果
2. 有害大気汚染物質モニタリング調査結果

1 自動測定局における常時監視測定結果

常時監視測定局の概要

- 測定局の設置状況

一般環境大気測定局(一般局) 12局 (県8局 大津市4局)

自動車排出ガス測定局(自排局) 4局 (県1局 大津市3局)

- 測定項目 (※赤字は環境基準設定項目)

二酸化いおう (SO_2)

浮遊粒子状物質 (SPM)

光化学オキシダント (O_3)

窒素酸化物 (NO_x) (一酸化窒素 (NO)、二酸化窒素 (NO_2))

一酸化炭素 (CO)

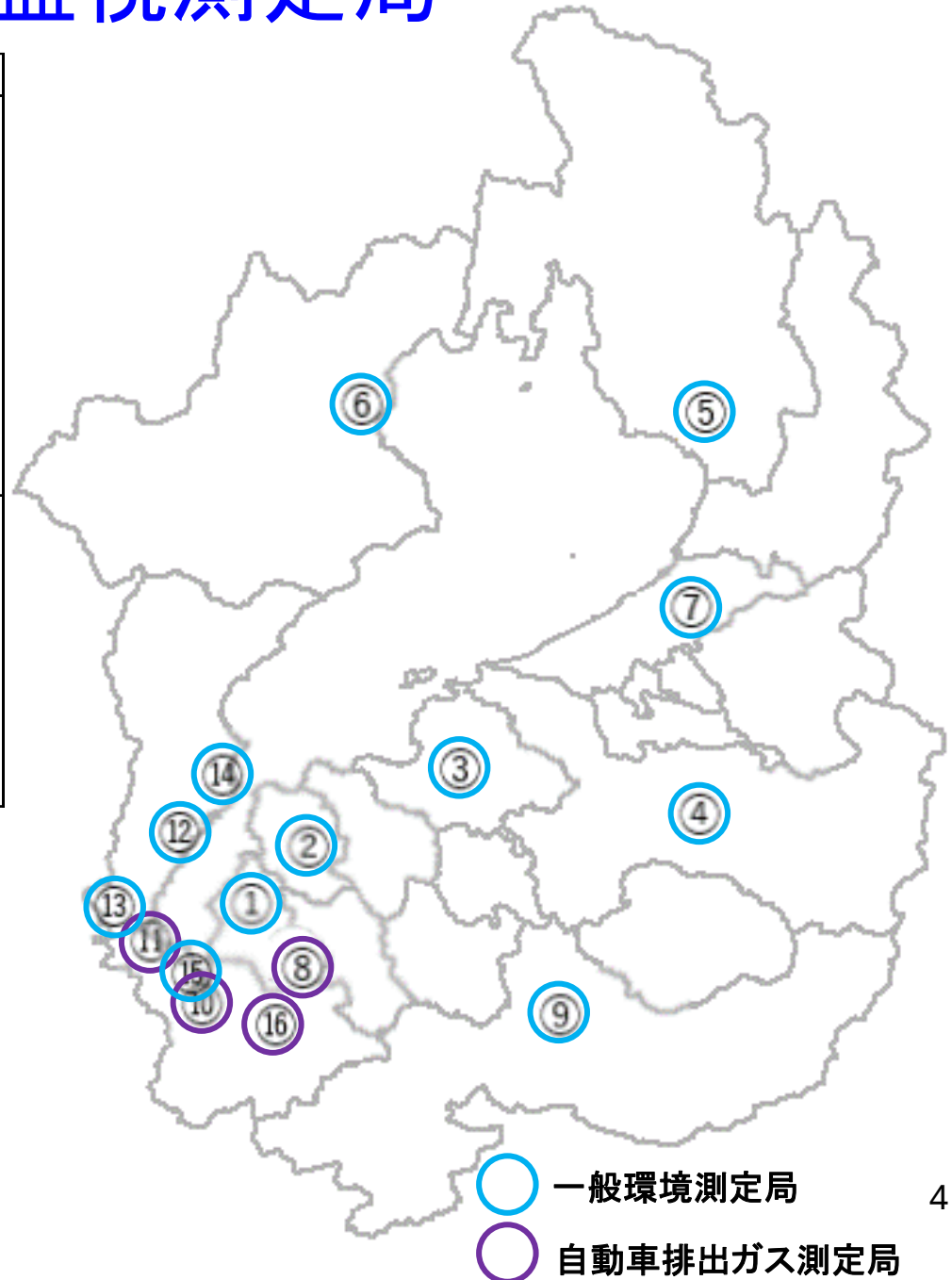
微小粒子状物質 ($\text{PM}_{2.5}$)

炭化水素類 (メタン、非メタン炭化水素)

気象項目 (風向、風速、気温、湿度)

常時監視測定局

番号	局名	種類	設置者
①	草津	一般環境測定局	滋賀県
②	守山	一般環境測定局	
③	八幡	一般環境測定局	
④	東近江	一般環境測定局	
⑤	長浜	一般環境測定局	
⑥	高島	一般環境測定局	
⑦	彦根	一般環境測定局	
⑧	自排草津	自動車排出ガス測定局	
⑨	甲賀	一般環境測定局	大津市
⑩	石山	自動車排出ガス測定局	
⑪	逢坂	自動車排出ガス測定局	
⑫	下阪本	一般環境測定局	
⑬	藤尾	一般環境測定局	
⑭	堅田	一般環境測定局	
⑮	膳所	一般環境測定局	
⑯	上田上	自動車排出ガス測定局	



彦根局の外観

大気汚染に係る環境基準

(常時監視測定局による測定項目)

物 質	環境上の条件
二酸化いおう (SO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。
光化学オキシダント (O _x)	1時間値が0.06ppm以下であること。
二酸化窒素 (NO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
一酸化炭素 (CO)	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。
微小粒子状物質 (PM _{2.5})	1年平均値が15 μg/m ³ 以下(長期基準)であり、かつ、1日平均値が35 μg/m ³ 以下(短期基準)であること。

短期的評価: 大気汚染の状況を環境基準に照らして短期的に評価。測定を行った日または時間について評価を行う(NO₂、PM_{2.5}を除く)。

長期的評価: 年間にわたる測定結果を長期的に観察した上で評価。1日平均値については、年間測定データのうち、高い方から2%の範囲を除外または、低い方から98%に相当するもので評価する(SO₂、SPM、NO₂、CO、PM_{2.5})。ただし、上記の評価方法にかかわらず環境基準を超える日が2日以上連続した場合は非達成とする(NO₂、PM_{2.5}を除く)。

令和7年度環境基準達成状況まとめ

達成局数／有効測定局数

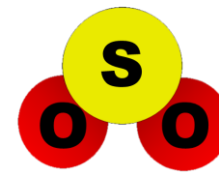
項目	短期的評価		長期的評価	
	一般局	自排局	一般局	自排局
二酸化いおう(SO ₂)	4 / 4	1 / 1	4 / 4	1 / 1
浮遊粒子状物質(SPM)	9 / 9	4 / 4	9 / 9	4 / 4
光化学オキシダント(Ox)	0 / 11	0 / 2		
二酸化窒素(NO ₂)			8 / 8	4 / 4
一酸化炭素(CO)	— / —	4 / 4	— / —	4 / 4
微小粒子状物質(PM _{2.5})			9 / 9	3 / 3

○光化学オキシダントは全局非達成

○その他の項目は全局達成

※二酸化窒素は長浜、堅田(一般局)が測定時間6000時間未満につき無効

二酸化いおう

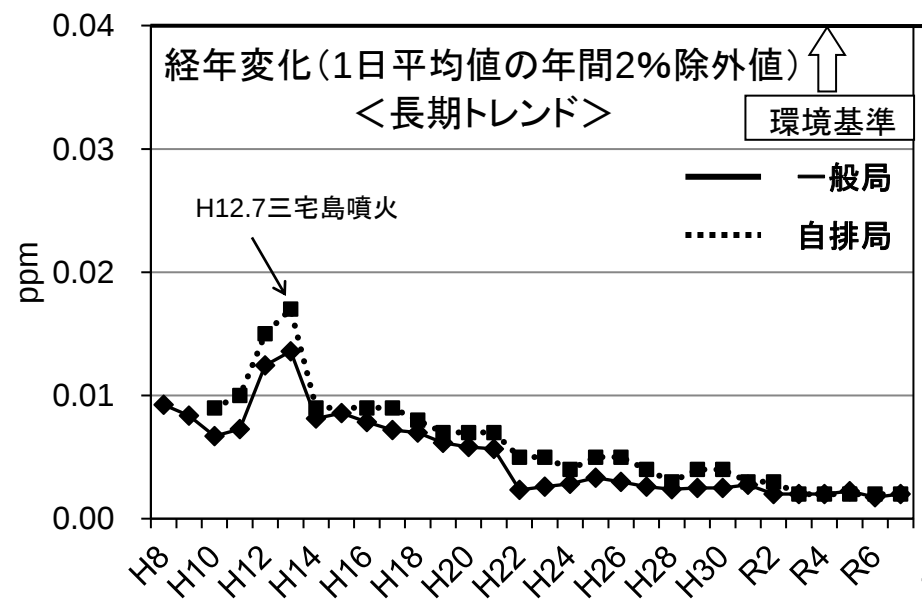
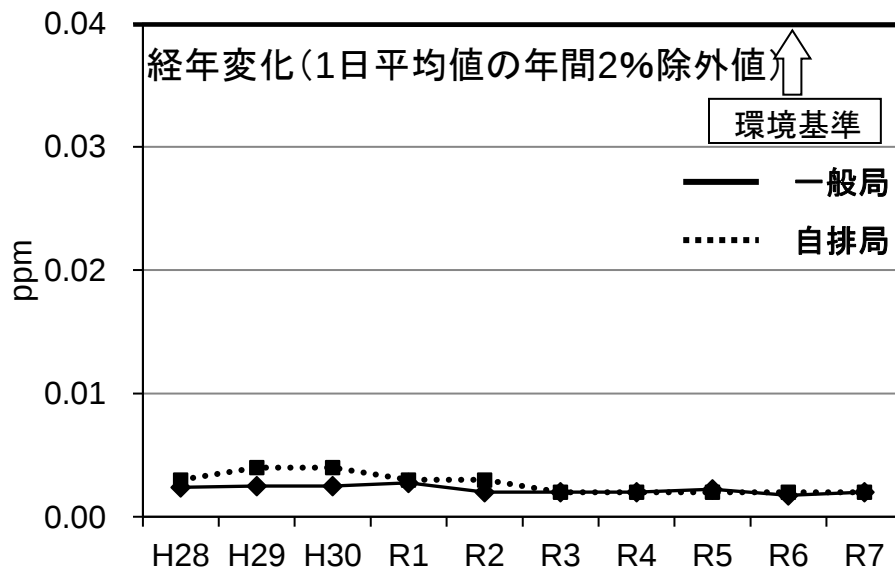


全局で環境基準を達成。
ここ数年は横ばい傾向。長期的には減少傾向。

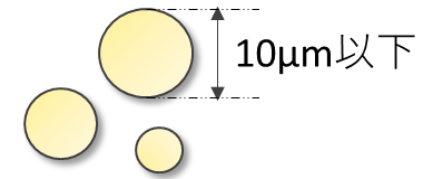
令和7年度環境基準達成状況

長期的評価

測定局 種別	有効測定 局数	環境基準 達成局数	達成率	1日平均値の年間2%除外値 (ppm)				環境基準
				全局平均	最小局	～	最大局	
一般局	4	4	100%	0.002	0.001	～	0.002	0.04
自排局	1	1	100%	0.002	0.002	～	0.002	



浮遊粒子状物質

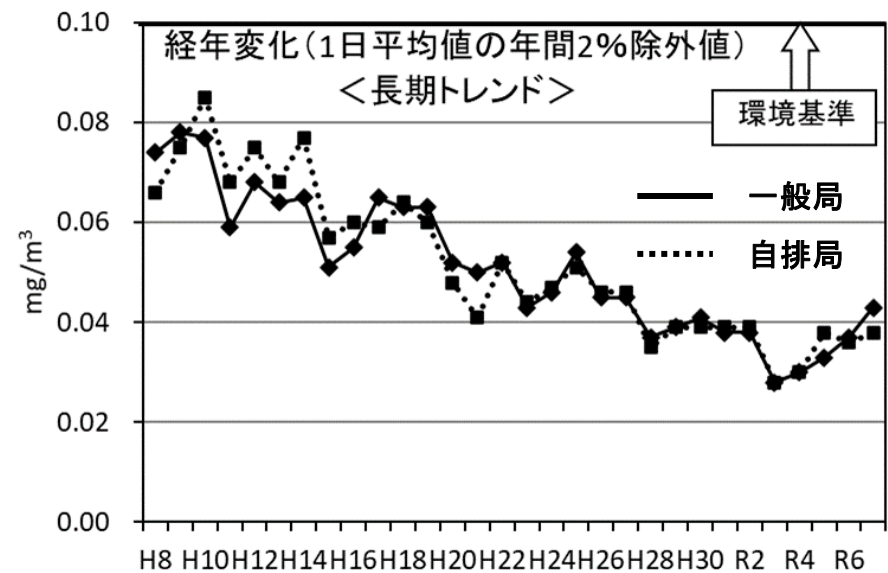
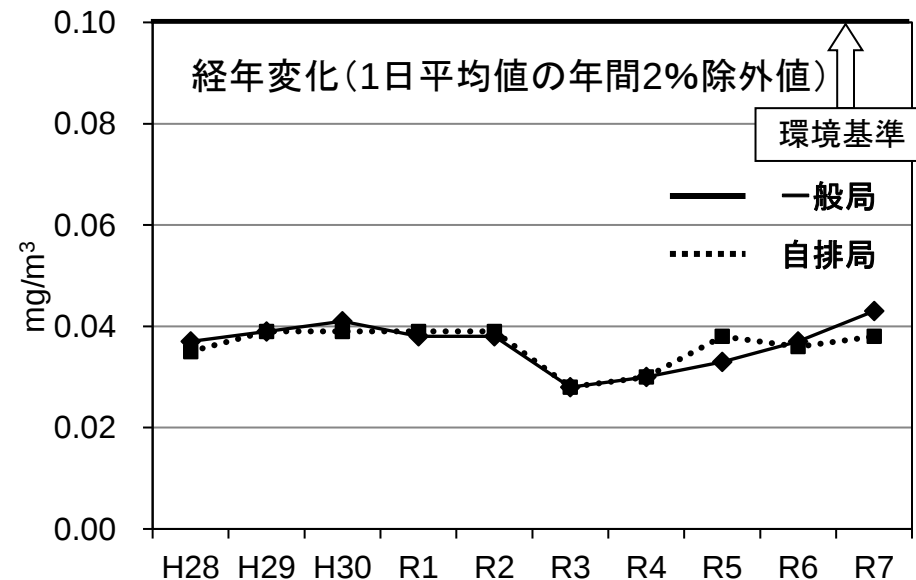


全局で環境基準を達成。長期的に減少傾向。

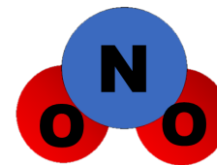
令和7年度環境基準達成状況

長期的評価

測定局 種別	有効測定 局数	環境基準 達成局数	達成率	1日平均値の年間2%除外値 (mg/m ³)				環境基準
				全局平均	最小局	～	最大局	
一般局	9	9	100%	0.043	0.037	～	0.048	0.10
自排局	4	4	100%	0.038	0.034	～	0.042	



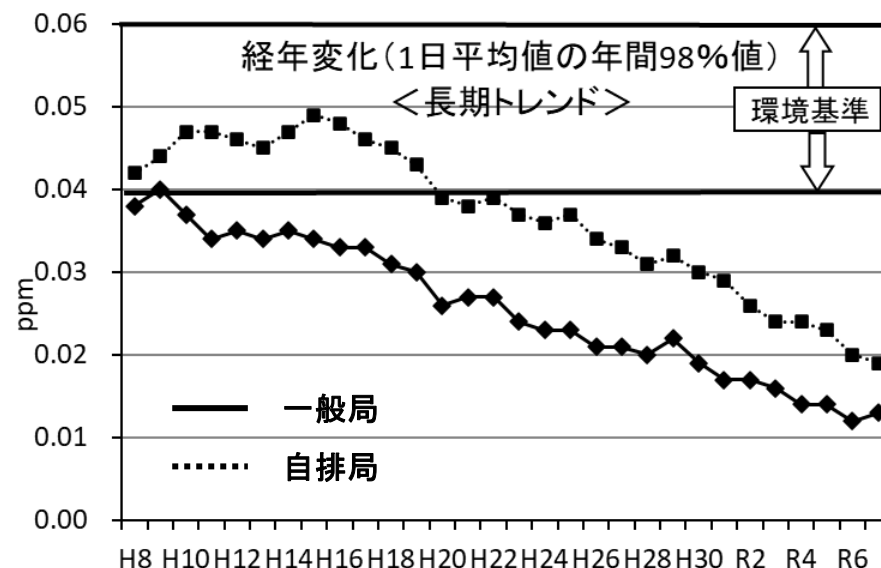
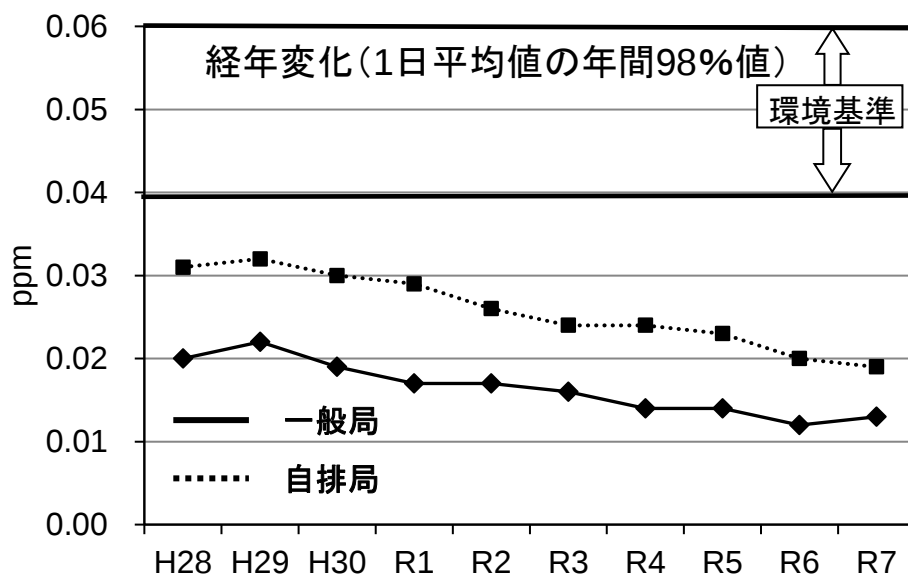
二酸化窒素



全局で環境基準を達成。減少傾向が続く。

令和7年度環境基準達成状況

測定局 種別	有効測定 局数	環境基準 達成局数	達成率	1日平均値の年間98%値 (ppm)				環境基準
				全局平均	最小局	～	最大局	
一般局	8	8	100%	0.014	0.010	～	0.020	0.04～0.06の ゾーン内又は それ以下
自排局	4	4	100%	0.019	0.014	～	0.023	



一酸化炭素

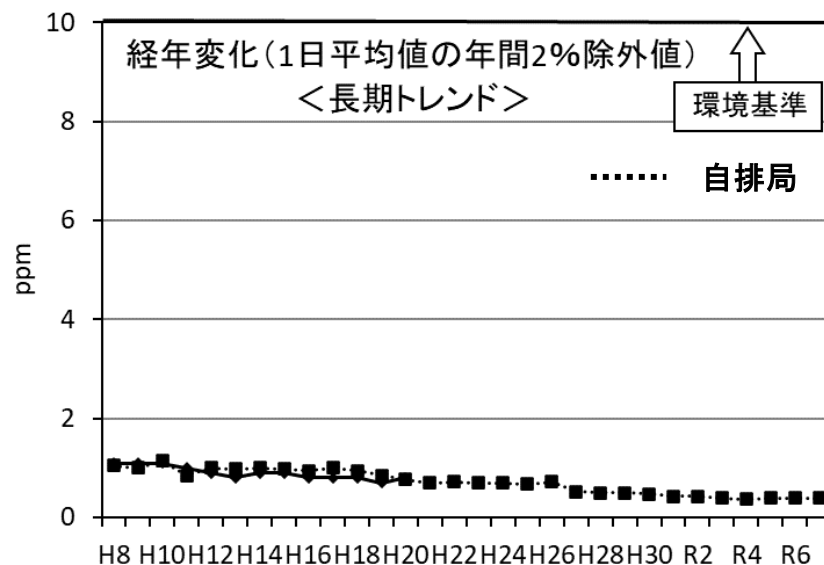
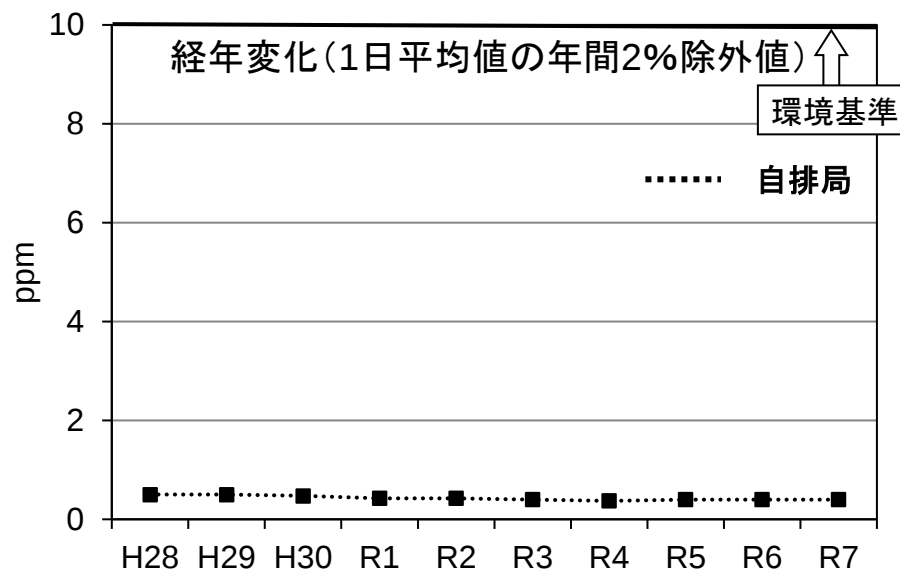


全局で環境基準を達成。ここ数年は横ばい傾向。

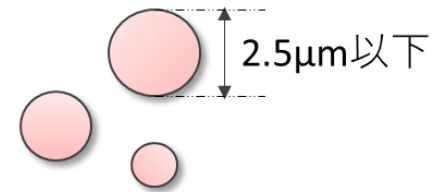
令和7年度環境基準達成状況

長期的評価

測定局 種別	有効測定 局数	環境基準 達成局数	達成率	1日平均値の年間2%除外値 (ppm)				環境基準
				全局平均	最小局	～	最大局	
自排局	4	4	100%	0.4	0.3	～	0.5	10



微小粒子状物質(PM_{2.5})



全局で環境基準を達成。長期的に減少傾向。

令和7年度環境基準達成状況

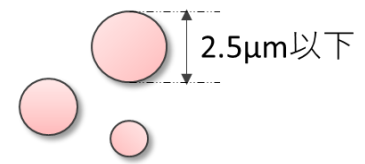
短期基準

測定局 種別	有効測定 局数	環境基準 達成局数	達成率	1日平均値の年間98パーセンタイル値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)				環境基準
				全局平均	最小局	～	最大局	
一般局	9	9	100%	24.9	20.4	～	27.8	35
自排局	3	3	100%	22.8	21.3	～	24.8	

長期基準

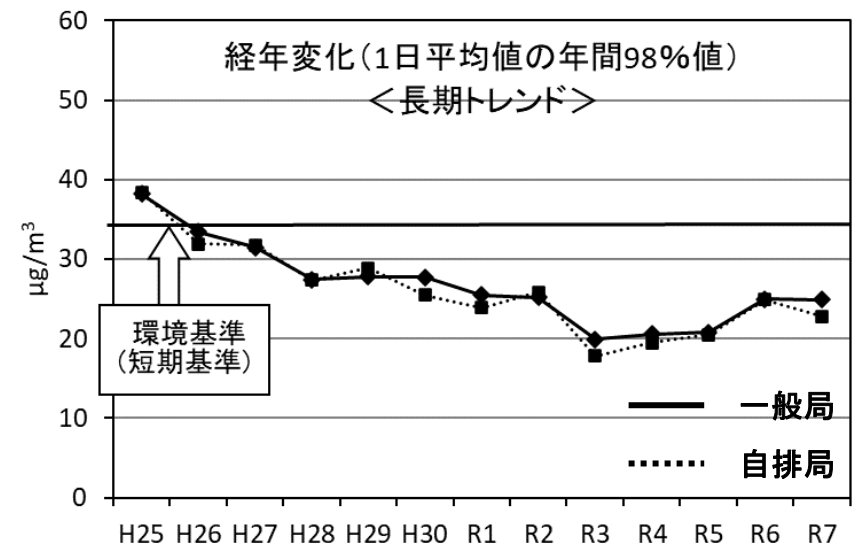
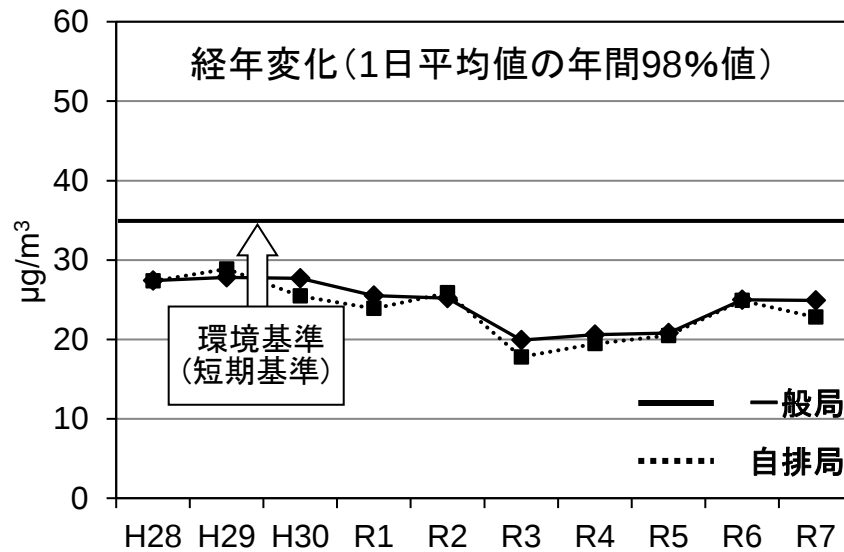
測定局 種別	有効測定 局数	環境基準 達成局数	達成率	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)				環境基準
				全局平均	最小局	～	最大局	
一般局	9	9	100%	9.3	7.5	～	10.5	15
自排局	3	3	100%	8.8	8.0	～	9.6	

微小粒子状物質(PM_{2.5})

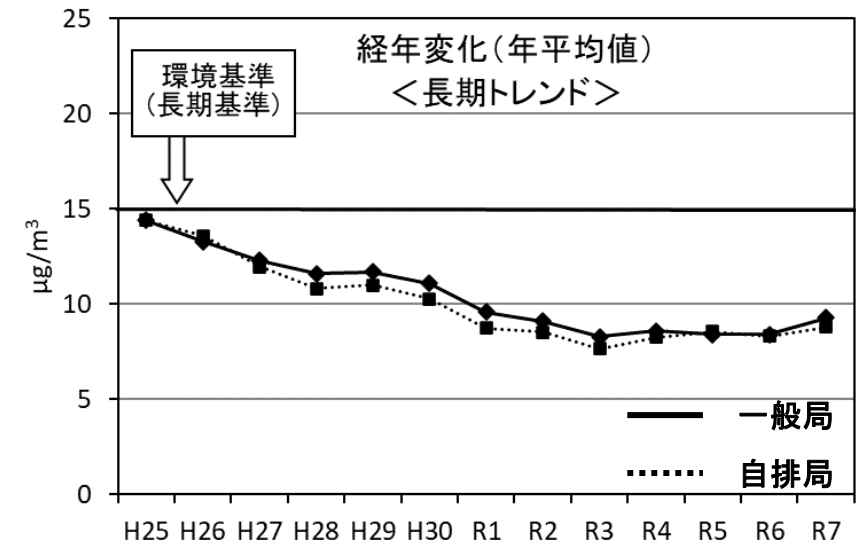
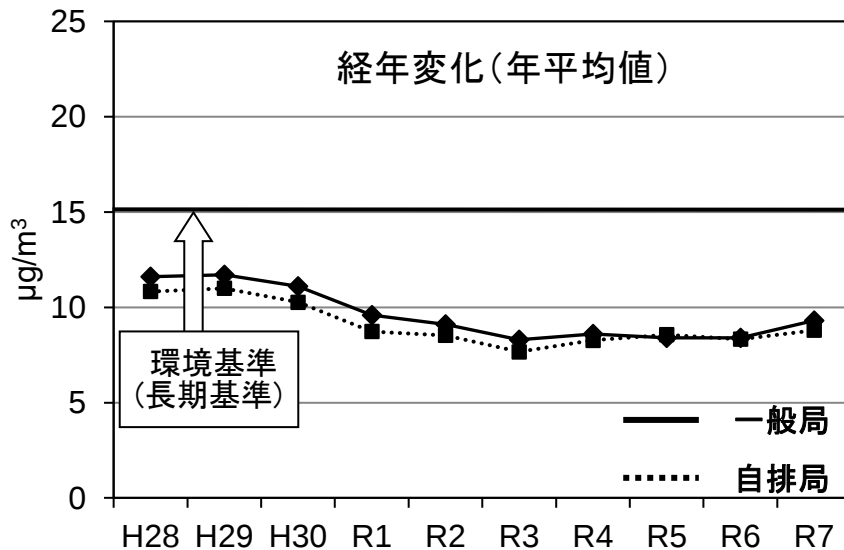


全局で環境基準を達成。長期的には減少傾向。

短期基準



長期基準



PM2.5 注意喚起のための暫定的な指針(環境省)

(平成25年2月27日制定 平成26年11月28日改定)

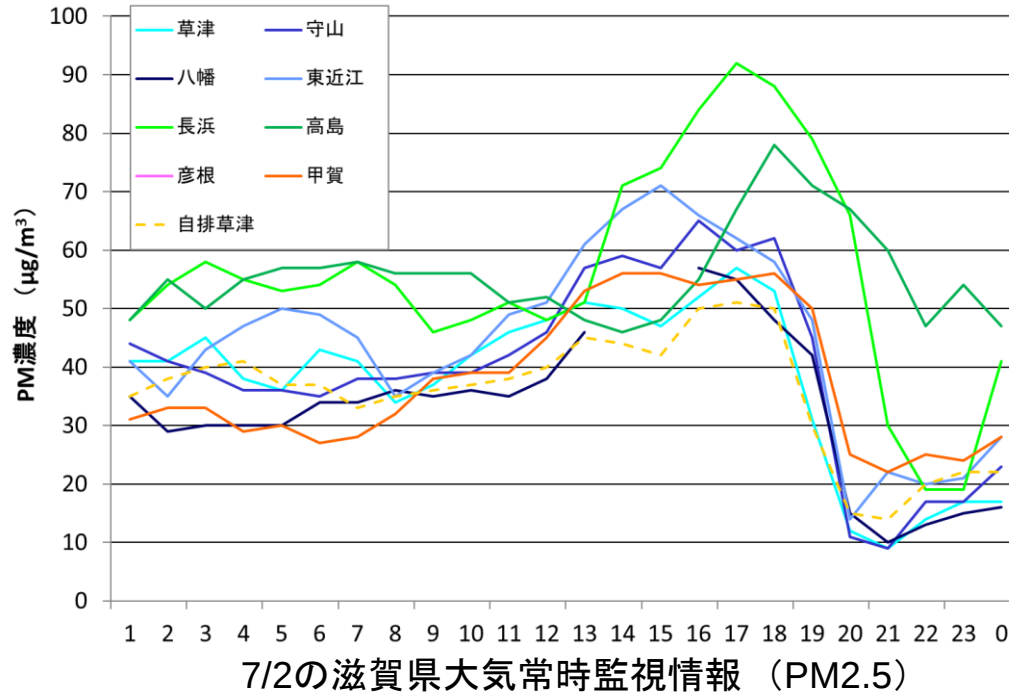
レベル	暫定的な指針となる値		注意喚起の判断に用いる値 ※3	
	日平均値 (μg/m ³)	行動のめやす	午前中の早めの時間帯での判断	午後からの活動に備えた判断
			5時～7時 1時間値 (μg/m ³)	5時～12時 1時間値 (μg/m ³)
II	70超	不要不急の外出や屋外での長時間の激しい運動をできるだけ減らす。 (高感受性者※2においては、体調に応じて、より慎重に行動することが望まれる。)	85超	80超
I	70以下	特に行動を制約する必要はないが、高感受性者は、健康への影響がみられることがあるため、体調の変化に注意する。	85以下	80以下
(環境基準)	35以下 ※1			

※1 環境基準は環境基本法第16条第1項に基づく人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準
PM2.5に係る環境基準の短期基準は日平均値35μg/m³であり、日平均値の年間98パーセンタイル値で評価
※2 高感受性者は、呼吸器系や循環器系疾患のある者、小児、高齢者等
※3 暫定的な指針となる値である日平均値を超えるか否かについて判断するための値

早朝、正午以外でも、県内で注意喚起のための暫定的な指針となる値である日平均値(70 μg/m³)を超えるおそれがある場合

PM2.5濃度上昇における対応

【滋賀県における当時の対応】



①PM2.5濃度の70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過を確認

7/2 14時 長浜測定局:71 $\mu\text{g}/\text{m}^3$

15時 東近江測定局:71 $\mu\text{g}/\text{m}^3$

18時 高島測定局:78 $\mu\text{g}/\text{m}^3$

②PM2.5の暫定指針値超過が懸念されたことから、測定値を継続的に注視

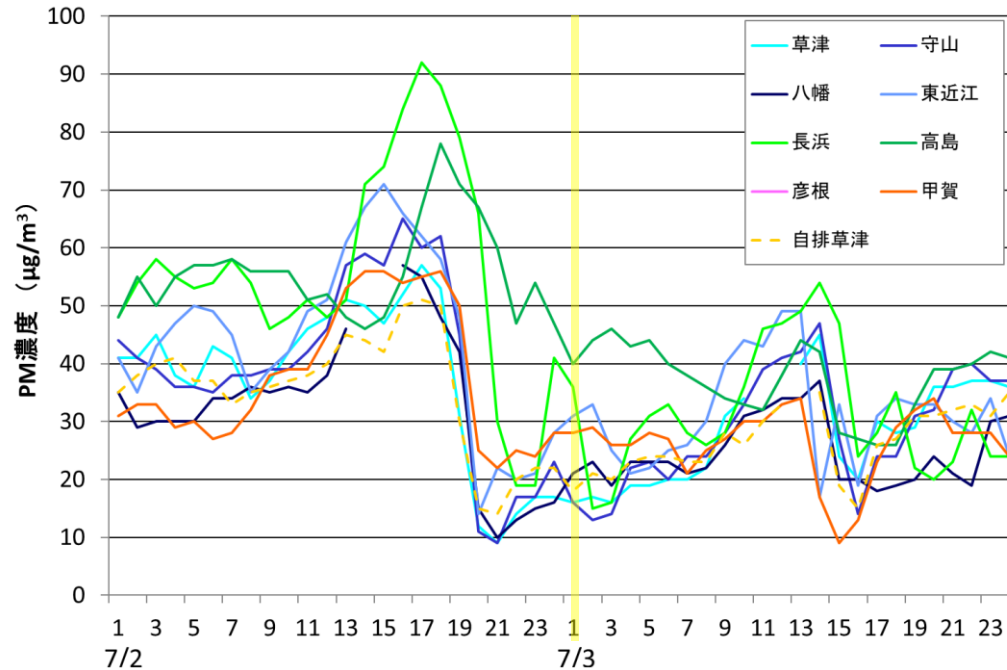
7/2 日平均値 朝から平均値が高かったことから、暫定指針値超過を懸念し注視

最高値を示した長浜局の19時までの測定値から計算すると61 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度

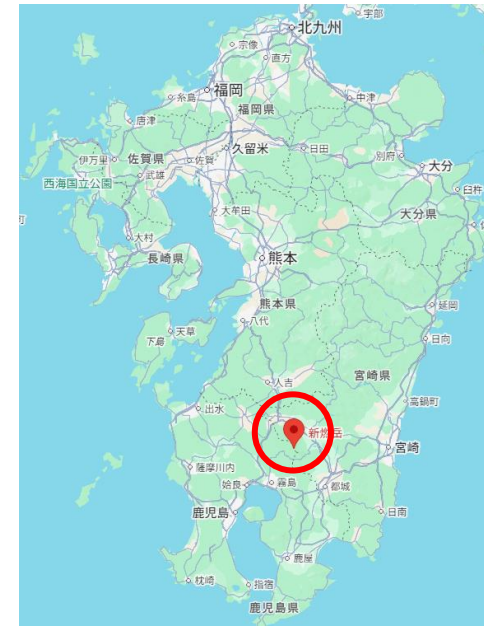
17時をピークに低下傾向であり70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下のため、注意喚起は実施せず 14

PM2.5濃度上昇における対応

【滋賀県における当時の対応】



7/2～3の滋賀県大気常時監視情報 (PM2.5)



鹿児島県 霧島山・新燃岳

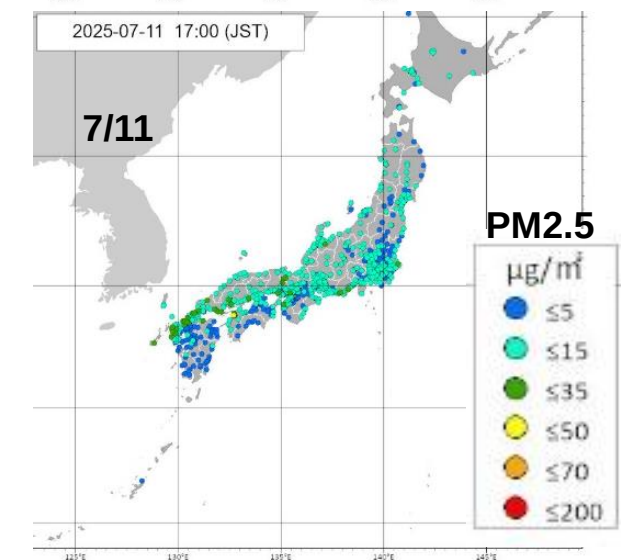
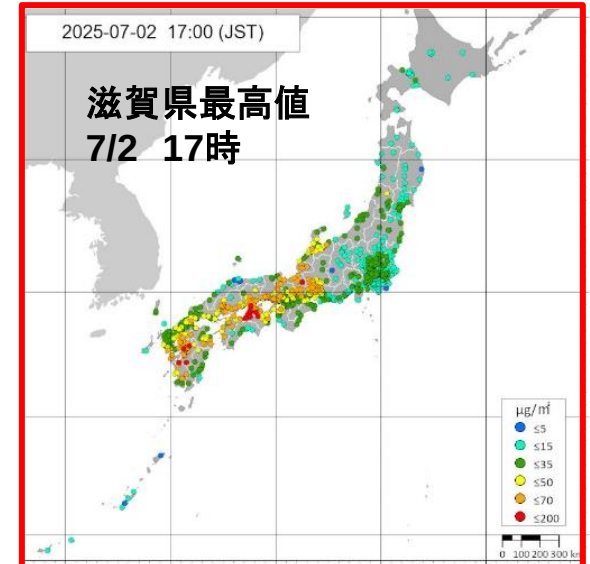
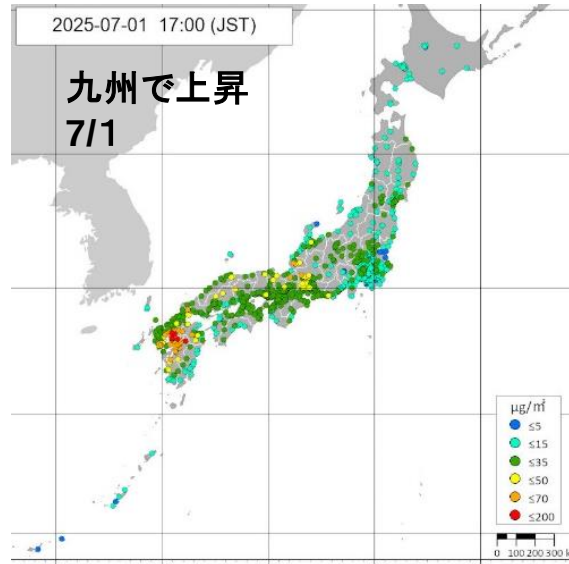
データ出典: GoogleMap

③PM2.5の暫定指針値超過が懸念されたことから、測定値を継続的に注視

7/3 早朝(5時～7時)	3時間平均値を確認($85 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)、 注意喚起は実施せず
正午(5時～12時)	8時間平均値を確認($80 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)、 注意喚起は実施せず
随時	日平均値を確認($70 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)、 注意喚起は実施せず
17時頃	環境省より、「霧島山・新燃岳の噴火による影響で、西日本を中心に帯状にPM2.5等の上昇を確認している」との連絡あり 一過性の上昇であると判断

7/4～5 濃度が高い状態が続くも注意喚起の基準値には至らず → **注意喚起は実施せず**

霧島山・新燃岳噴火の影響



データ出典: 環境省そらまめ君 / Data source: Soramame-Boy (provided by Ministry of Environment, Japan)

作図: 国立環境研究所 / Graphic: National Institute for Environmental Studies, Japan

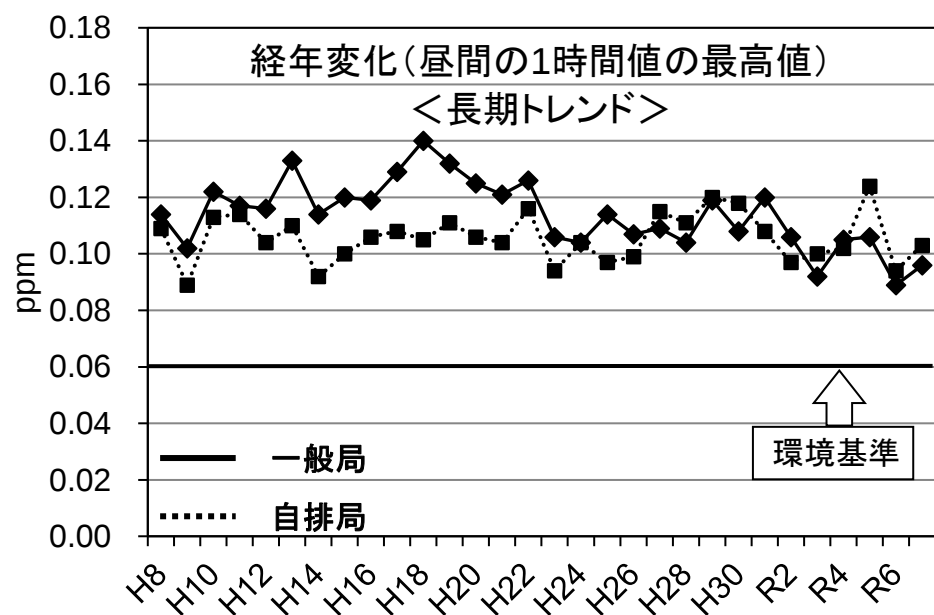
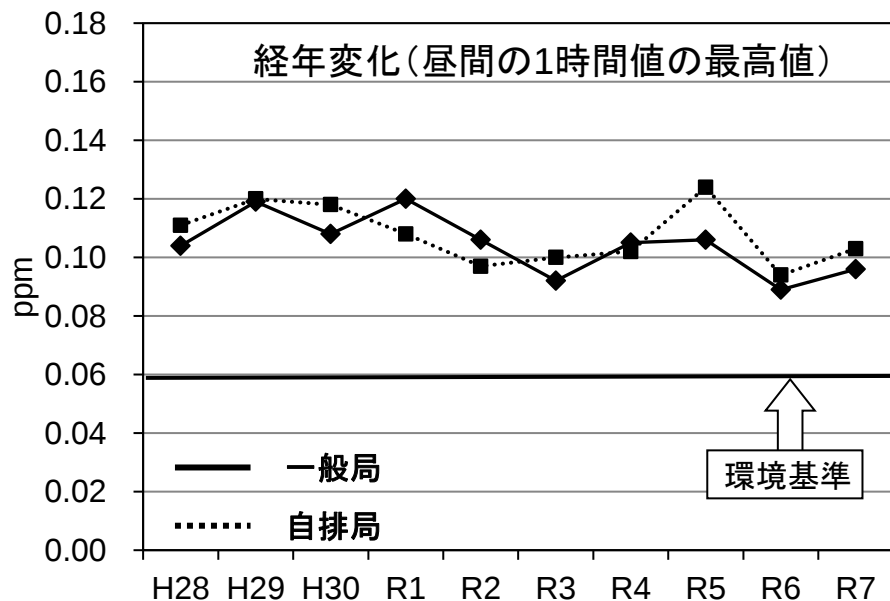
(c) 2025 National Institute for Environmental Studies, Japan. CC-BY 4.0 International

光化学オキシダント

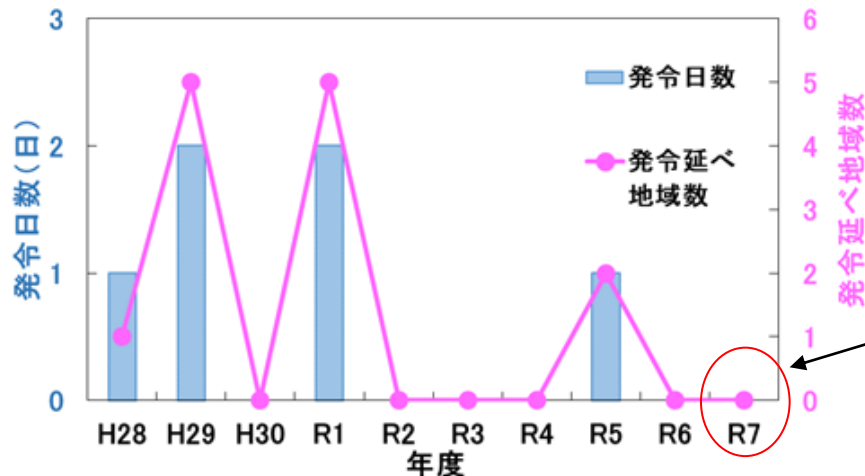
全局で環境基準非達成。概ね横ばい傾向。

令和7年度環境基準達成状況 ※全国の環境基準達成状況(令和6年度) 一般局0%、自排局0%

測定局 種別	有効測定 局数	環境基準 達成局数	達成率	昼間の1時間値の最高値 (ppm)				環境基準
				全局平均	最小局	～	最大局	
一般局	11	0	0%	0.096	0.089	～	0.103	0.06
自排局	2	0	0%	0.103	0.099	～	0.106	



光化学スモッグ注意報の発令

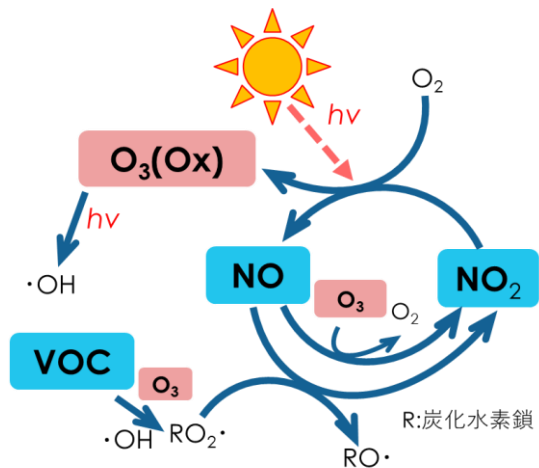


光化学スモッグ注意報発令日数の推移

【注意報の発令基準】(大気汚染防止法、県要綱)
オキシダント濃度の1時間値が0.12ppm以上になり、気象条件から見て、その濃度が継続すると認められるとき。

令和7年度は光化学スモッグ注意報の発令なし

令和8年度は、6月18日時点で注意報の発令なし



オキシダント(Ox)発生メカニズム

大気中の窒素酸化物が、太陽光の紫外線と光化学反応を起こし、オキシダント(Ox)が発生。揮発性有機化合物(VOC)は、前駆物質としてオキシダント(Ox)の発生に関与。

日差しが強く、風が弱い日に発生しやすい。晴れた日で、気温が24℃以上、風速が5m/s以下の気象状態で非常に発生しやすいとされている。

オキシダント環境基準の見直し

環境基準の見直し

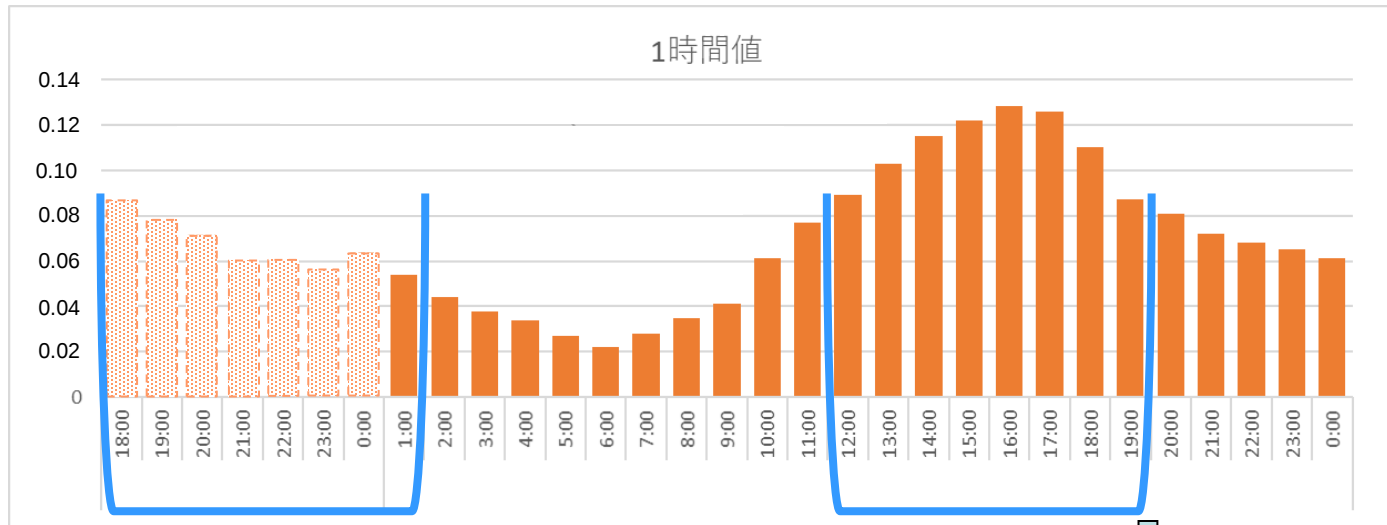
(R8年度測定分から適用(R9年度報告))

- 短期基準の指標が1時間値から8時間値に
- 異常値を考慮し、日最高8時間値の年間99%tile値を短期基準の評価に使用
- 長期毒性を考慮し、長期基準(日最高8時間値の年平均値)を新たに導入
- 長期基準では、人への健康影響だけでなく植物の成長等への影響も考慮
- 光化学オキシダントの改善状況进行评估する項目として、短期基準を達成した日数の割合による評価も導入

	現行基準			改定後		
短期	1時間値	0.06ppm 以下	人健康	8時間値 (日最高8時間値の 年間99%tile値) ※達成日数割合でも評価	0.07ppm 以下	人健康
長期	—	—		日最高8時間値の 年間平均値	0.04ppm 以下	人健康 ＋植物

オキシダント環境基準の見直し

日最高8時間値の算出手順



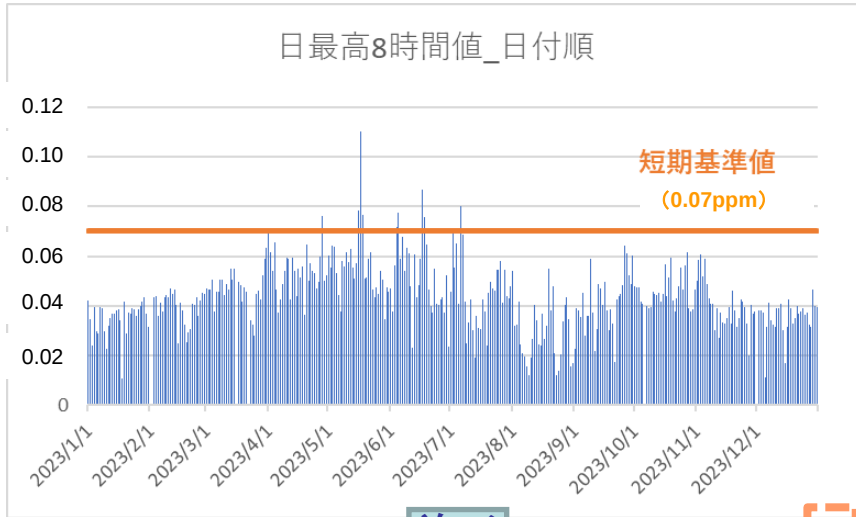
8時間移動平均を算出



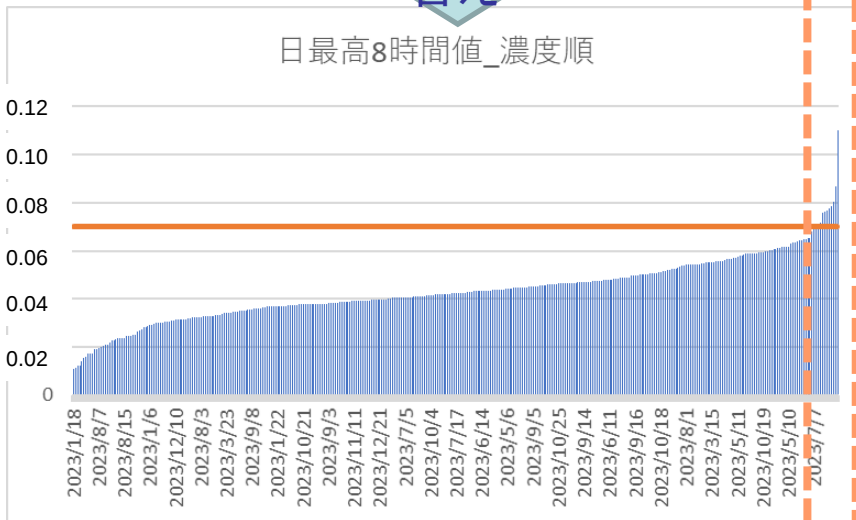
例：令和5年5月17日
草津局のデータ

オキシダント環境基準の見直し

日最高8時間値の年間99%tile値の算出手順

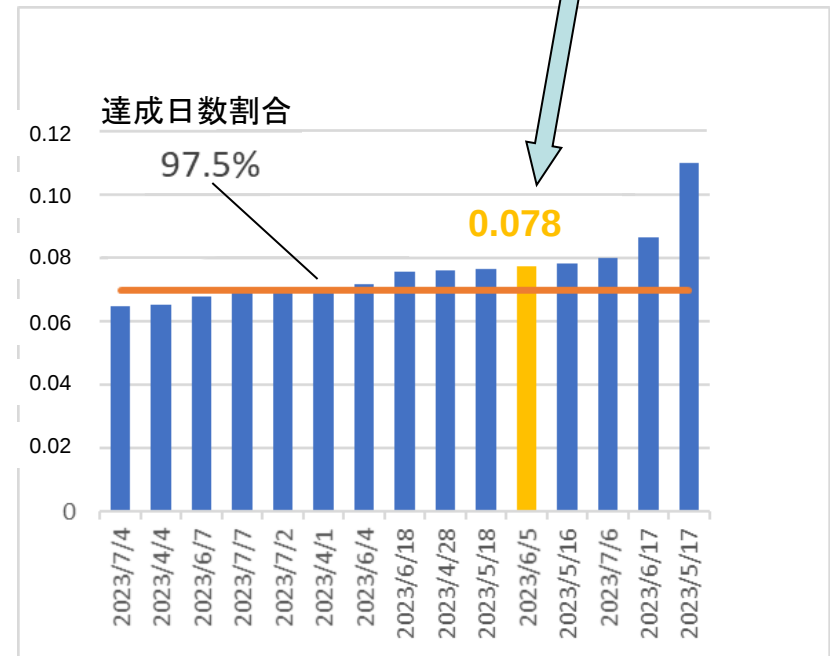


並べ
替え



年間99%tile値:

年間にわたる日最高8時間値(有効測定日分)のうち、測定値の低い方から99%に相当するもの

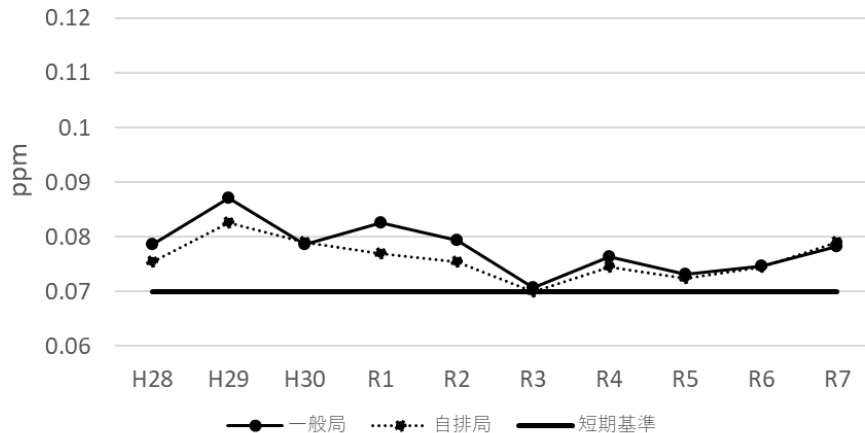


オキシダント環境基準の見直し

短期基準は概ね減少傾向
長期基準は横ばい傾向

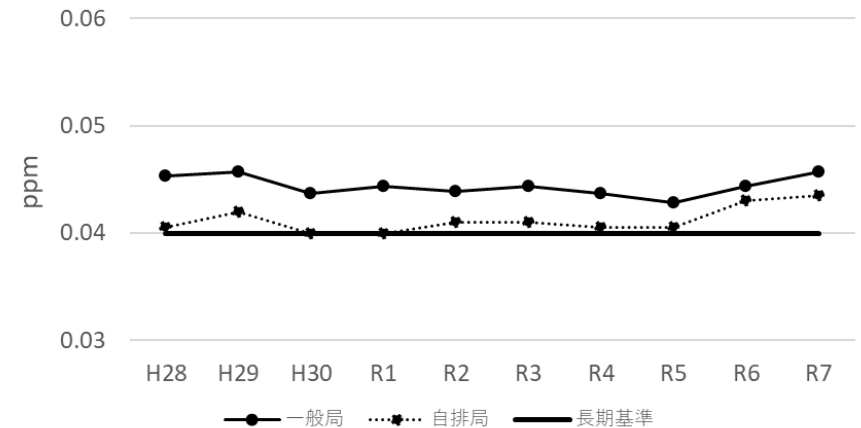
短期基準

日最高8時間値の年間99%tile値の経年推移



長期基準

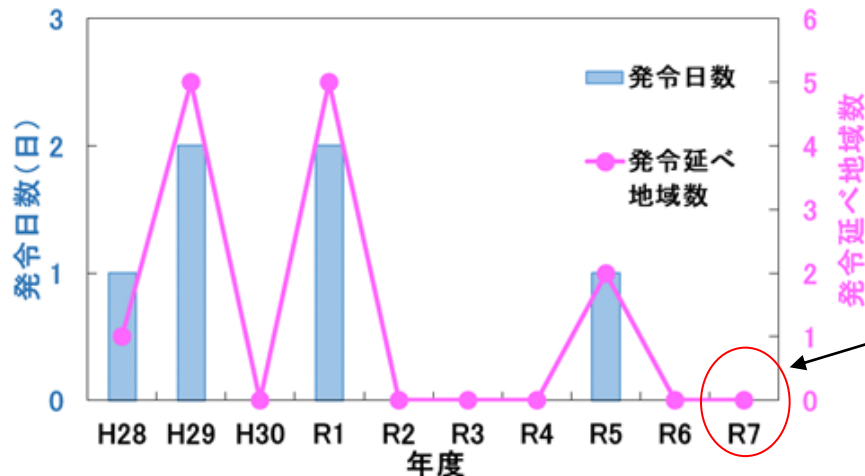
日最高8時間値の年平均値の経年推移



- 短期・長期一方のみを達成する局あり
- 総合判定(短期・長期両方を達成)では達成局なし

※Ⅱ型共同研究で共有されているエクセルで計算しており、後日環境省から提供されるエクセルや新テレメータシステム(R9更新)とは算出値が一致しない可能性あり

光化学スモッグ注意報の発令

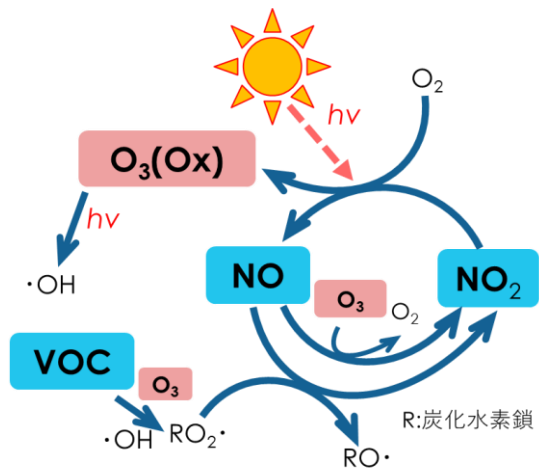


光化学スモッグ注意報発令日数の推移

【注意報の発令基準】(大気汚染防止法、県要綱)
オキシダント濃度の1時間値が0.12ppm以上になり、気象条件から見て、その濃度が継続すると認められるとき。

令和7年度は光化学スモッグ注意報の発令なし

令和8年度は、6月18日時点で注意報の発令なし



オキシダント(Ox)発生メカニズム

大気中の窒素酸化物が、太陽光の紫外線と光化学反応を起こし、オキシダント(Ox)が発生。揮発性有機化合物(VOC)は、前駆物質としてオキシダント(Ox)の発生に関与。

日差しが強く、風が弱い日に発生しやすい。晴れた日で、気温が24℃以上、風速が5m/s以下の気象状態で非常に発生しやすいとされている。

大気常時監視調査のデータのリアルタイム提供

測定データをリアルタイムで提供

URL <https://shiga-taiki.jp>

【滋賀県大気常時監視情報】で検索

【滋賀県大気常時監視情報】

速報値・注意報等情報の閲覧、データのダウンロードなどが可能

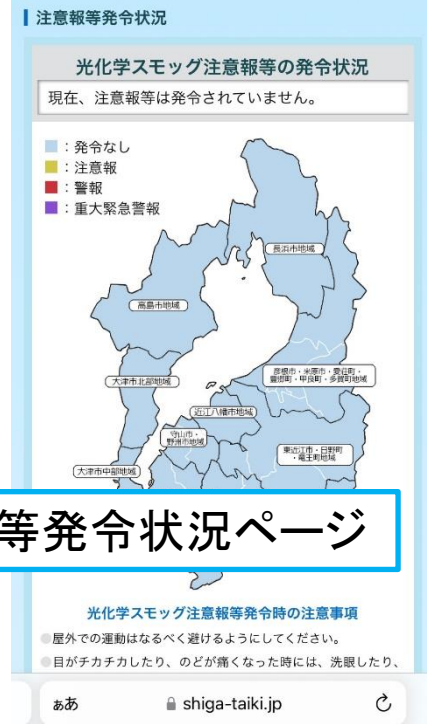
《メニュー》

地図表示
速報値一覧
局別日報
項目別日報
月報
濃度推移グラフ
経日グラフ
注意報等発令状況
ダウンロード
リンク

トップページ



滋賀県大気常時監視情報



注意報等発令状況ページ

そらまめくん(環境省大気汚染物質広域監視システム)でもデータ公開

2 有害大気汚染物質モニタリング調査結果

有害大気汚染物質モニタリング調査

【調査地点】

全国標準監視地点	5地点(県4地点 大津市1地点)
地域特設監視地点(固定発生源周辺)	2地点(県2地点)
地域特設監視地点(沿道)	1地点(県1地点)

【測定項目】

ダイオキシン類を除く優先取組物質20種および水銀（地点によって異なる）

●VOC類14種(ベンゼン※¹、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、アクリロニトリル※²、塩化ビニルモノマー、クロロホルム、1, 2-ジクロロエタン、1, 3-ブタジエン、塩化メチル、トルエン、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、酸化エチレン)

●金属類6種(ベリリウム、マンガン、ニッケル、クロム、ヒ素、水銀※³)

●多環芳香族炭化水素類1種(ベンゾ[a]ピレン)

※1 下線付き太字のベンゼン等4物質には環境基準が設定されている。

※2 下線付きのアクリロニトリル等11物質には指針値が設定されている。

※3 法改正に伴い、平成30年4月1日以降、水銀は有害大気汚染物質から定義上除外されたが、従来どおりの調査を継続して実施している。

【測定回数】 年12回

【結 果】 令和7年度に環境基準や指針値を超過する物質はなかった。

調査地点位置図

＜測定地点区分＞

○：全国標準監視地点（県設置）

△：全国標準監視地点（大津市設置）
大気環境の全般的な状況と
経年変化を把握するために選定。

●：地域特設監視地点（固定発生源周辺）
有害大気汚染物質の排出量が多い
発生源の影響を把握するために、
固定発生源周辺の地点を選定。
（排出量は、PRTRデータを参照）

◎：地域特設監視地点（沿道）
自動車等の排出の影響を把握するために、
道路近傍の地点を選定。



各地点における測定項目

測定地点名	測定地点区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
		ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン	アクリロニトリル	塩化ビニルモノマー	クロロホルム	1,2-ジクロロエタン	1,3-ブタジエン	トルエン	塩化メチル	ホルムアルデヒド	アセトアルデヒド	酸化エチレン	ベリリウム及びその化合物	マンガン及びその化合物	ニッケル化合物	クロム及びその化合物	ヒ素及びその化合物	水銀及びその化合物	ベンゾ「a」ピレン
御殿浜	全国標準	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
草津	全国標準	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長浜	全国標準	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東近江	全国標準	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高島	全国標準	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
湖南	地域特設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
彦根	地域特設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								
自排草津	地域特設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○

有害大気汚染物質モニタリング調査 令和7年度調査結果の概要(1)

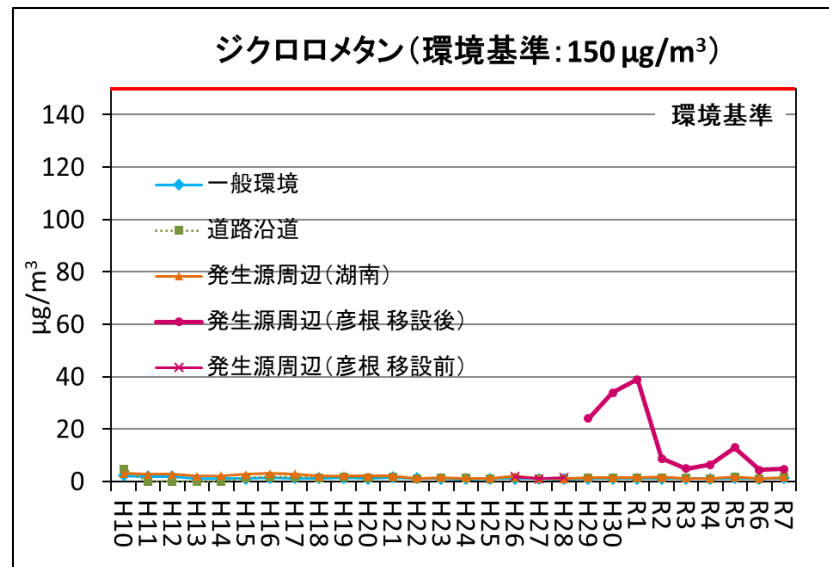
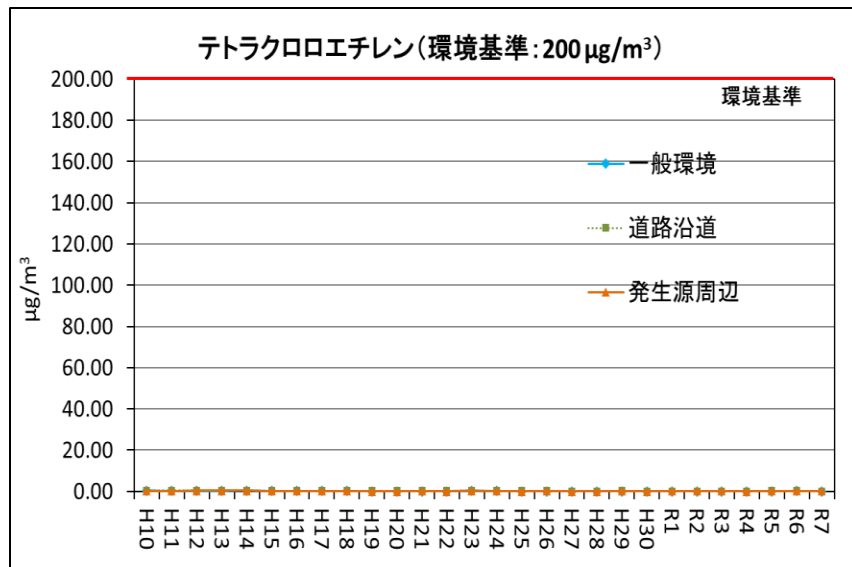
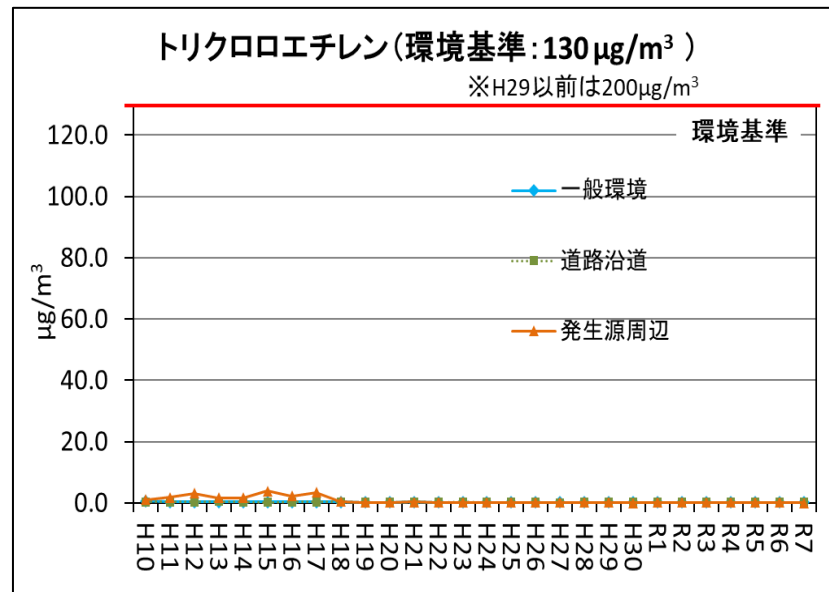
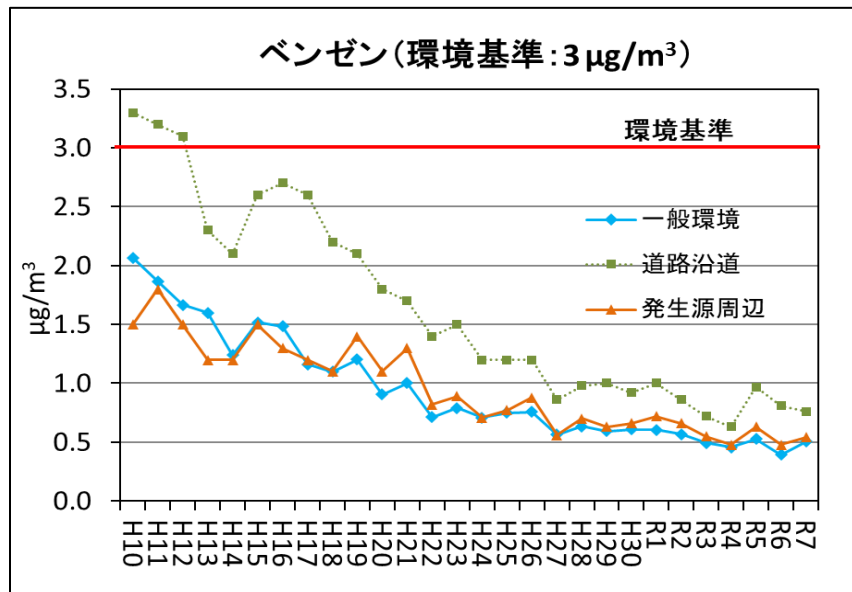
環境基準が設定されている物質:全ての地点で環境基準達成

物質名	地点属性	地点数	環境基準 達成 地点数	各地点の年平均値			
				平均	最小地点 ~ 最大地点	環境 基準値	単位
ベンゼン	一般環境	6	6	0.51	0.37 ~ 0.70	3	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.54			
	沿道	1	1	0.76			
トリクロロエチレン	一般環境	6	6	0.087	0.052 ~ 0.16	130	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.073			
	沿道	1	1	0.10			
テトラクロロエチレン	一般環境	6	6	0.064	0.040 ~ 0.12	200	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.12			
	沿道	1	1	0.083			
ジクロロメタン	一般環境	5	5	1.2	1.1 ~ 1.7	150	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	2	2	3.2	1.6 ~ 4.8		
	沿道	1	1	1.5			

※ 環境基準とは、**環境基本法に基づき設定される**、人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準です。

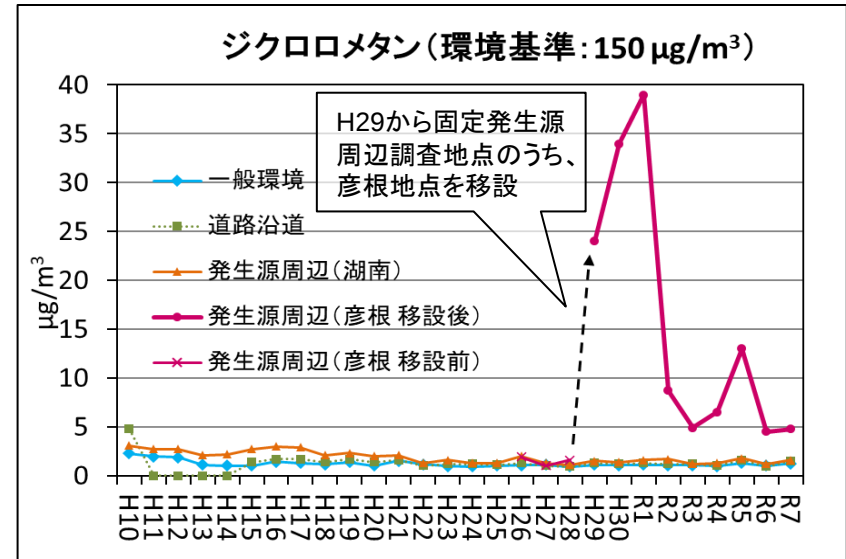
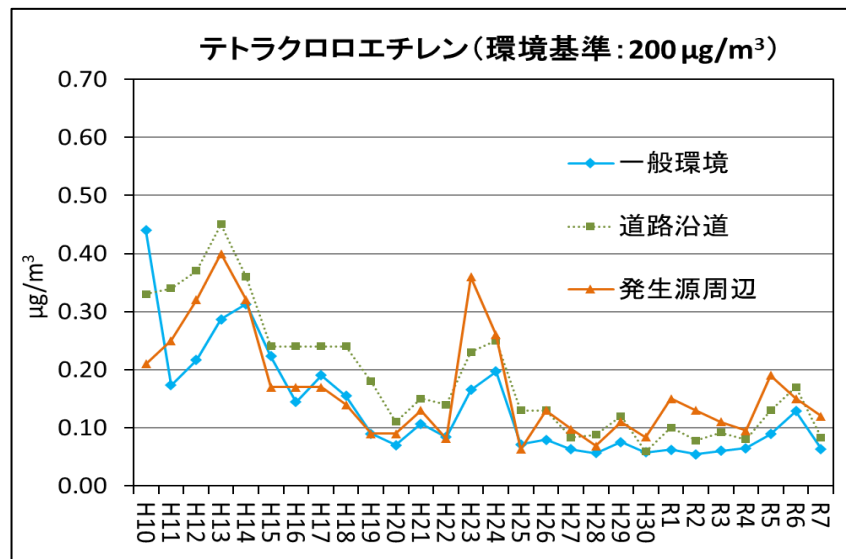
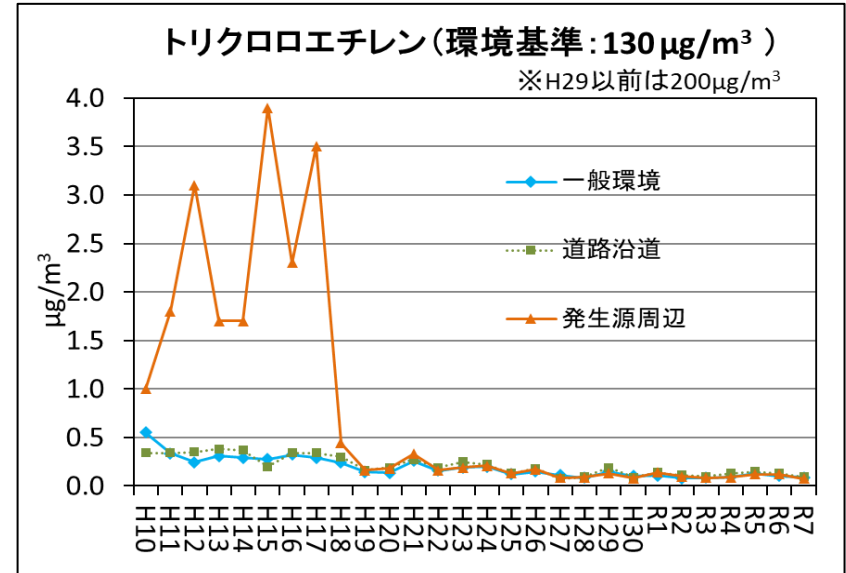
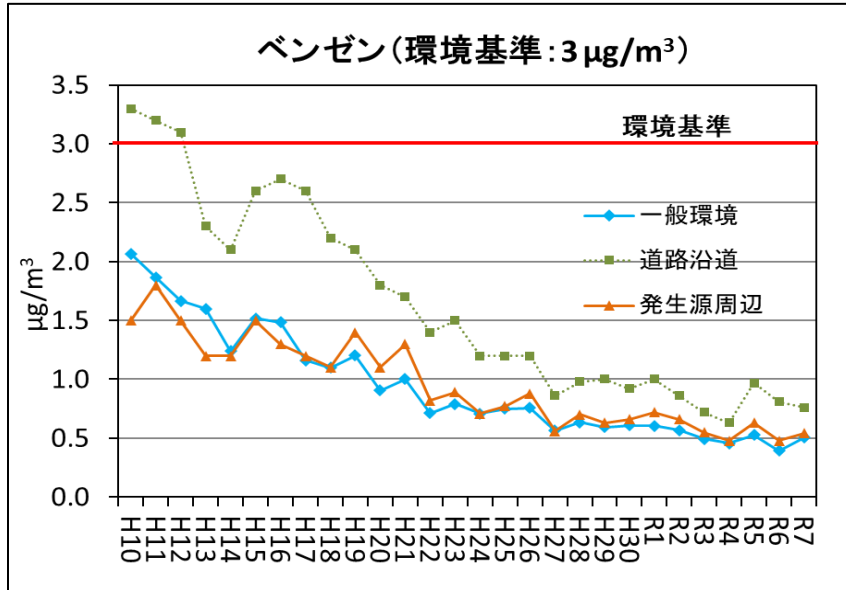
環境基準設定項目の経年変化

H12までの道路沿道地点でのベンゼンを除き、全地点で環境基準を達成。
概ね減少ないし横ばい傾向。



環境基準設定項目の経年変化

H12までの道路沿道地点でのベンゼンを除き、全地点で環境基準を達成。
概ね減少ないし横ばい傾向。



有害大気汚染物質モニタリング調査 令和7年度調査結果の概要(2)

指針値が設定されている物質:全ての地点で指針値を達成

物質名	地点属性	地点数	指針値 達成 地点数	各地点の年平均値			
				平均	最小地点 ~ 最大地点	指針値	単位
アクリロニトリル	一般環境	6	6	0.042	0.030 ~ 0.091	2	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.054			
	沿道	1	1	0.066			
アセトアルデヒド	一般環境	6	6	1.9	1.3 ~ 4.6	120	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	1.6			
	沿道	1	1	1.3			
塩化ビニルモノマー	一般環境	6	6	0.013	0.011 ~ 0.017	10	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.020			
	沿道	1	1	0.014			
塩化メチル	一般環境	6	6	1.3	1.2 ~ 1.3	94	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	1.4			
	沿道	1	1	1.3			
クロロホルム	一般環境	6	6	0.17	0.12 ~ 0.29	18	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.32			
	沿道	1	1	0.18			

※ 有害性評価に係るデータの科学的信頼性において制約がある場合も含めて検討された、環境中の有害大気汚染物質による**健康リスクの低減を図るための指針**となる数値であり、現に行われている**大気モニタリングの評価にあたっての指標**や**事業者による排出抑制努力の指標**としての機能を果たすことが期待されるものです。

有害大気汚染物質モニタリング調査 令和7年度調査結果の概要(3)

指針値が設定されている物質: 全ての地点で指針値を達成

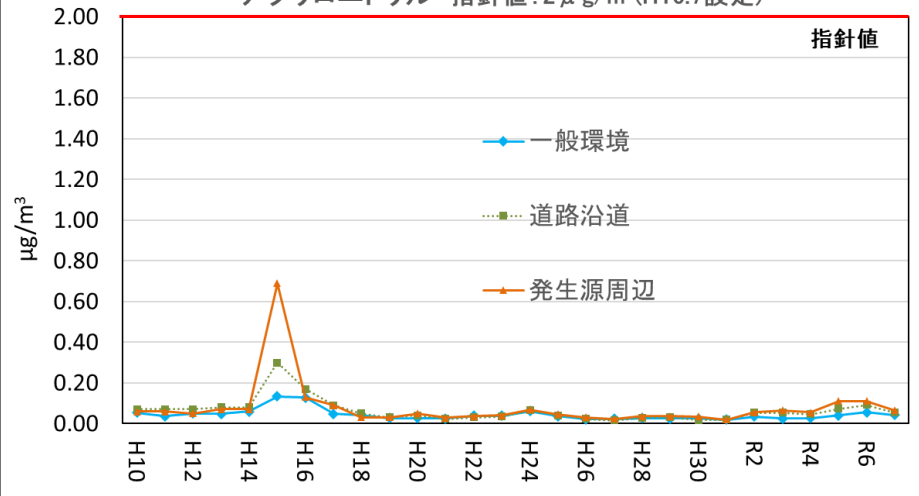
物質名	地点属性	地点数	指針値 達成 地点数	各地点の年平均値			
				平均	最小地点 ~ 最大地点	指針値	単位
1,2-ジクロロエタン	一般環境	6	6	0.16	0.15 ~ 0.22	1.6	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.16			
	沿道	1	1	0.15			
1,3-ブタジエン	一般環境	6	6	0.034	0.021 ~ 0.068	2.5	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.035			
	沿道	1	1	0.068			
水銀及びその化合物	一般環境	4	4	1.4	1.4 ~ 1.5	40	$\text{ng-Hg}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	2	2	1.7	1.6 ~ 1.7		
ニッケル化合物	一般環境	5	5	0.41	0.039 ~ 1.7	25	$\text{ng-Ni}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.18			
ヒ素及びその化合物	一般環境	5	5	0.31	0.069 ~ 1.2	6	$\text{ng-As}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	0.12			
マンガン及びその化合物	一般環境	5	5	2.6	0.58 ~ 10	140	$\text{ng-Mn}/\text{m}^3$
	固定発生源周辺	1	1	1.6			

※ 有害性評価に係るデータの科学的信頼性において制約がある場合も含めて検討された、環境中の有害大気汚染物質による**健康リスクの低減を図るための指針**となる数値であり、現に行われている**大気モニタリングの評価**にあたっての指標や**事業者による排出抑制努力の指標**としての機能を果たすことが期待されるものです。

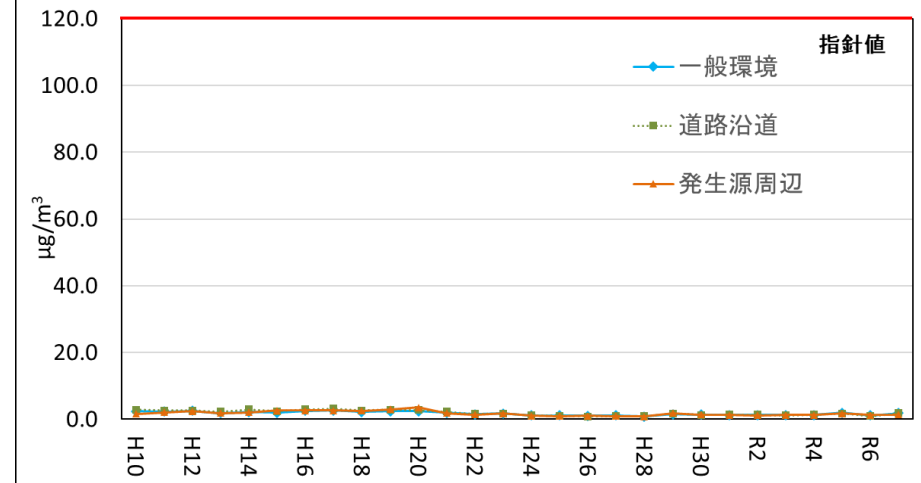
指針値設定項目(voc類)の経年変化

指針値設定以来、全地点で達成。概ね減少ないし横ばい傾向。

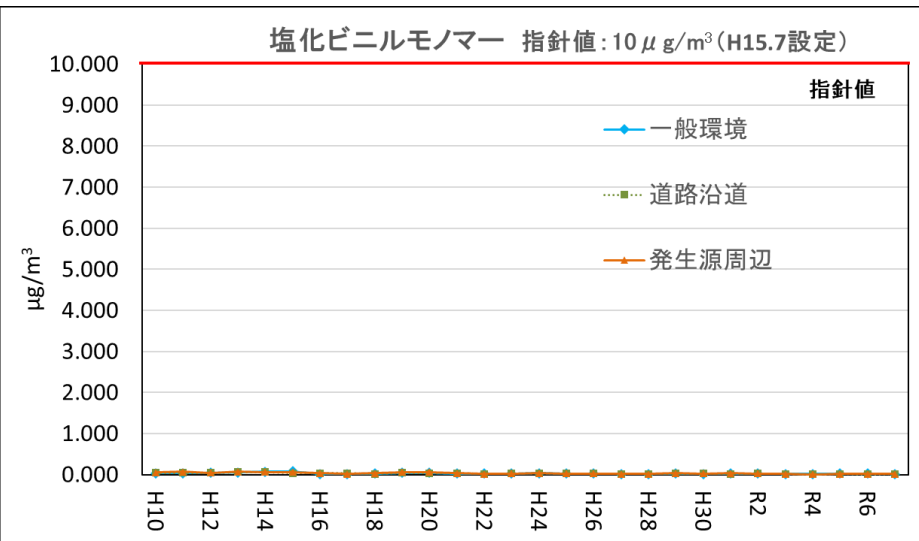
アクリロニトリル 指針値: $2 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H15.7設定)



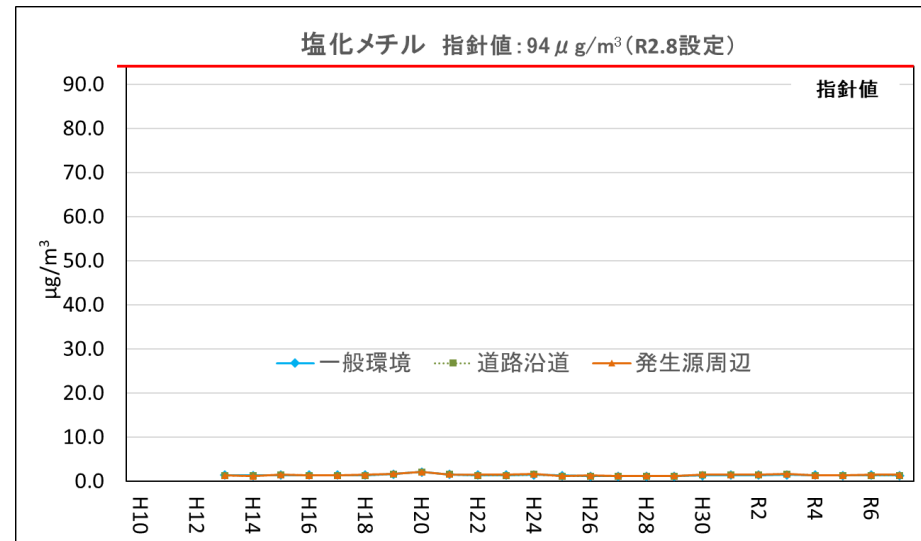
アセトアルデヒド 指針値: $120 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (R2.8設定)



塩化ビニルモノマー 指針値: $10 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H15.7設定)



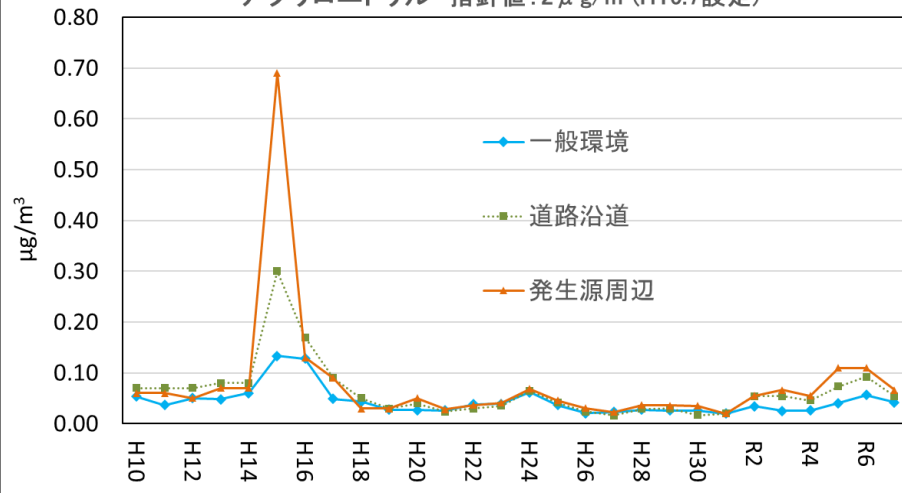
塩化メチル 指針値: $94 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (R2.8設定)



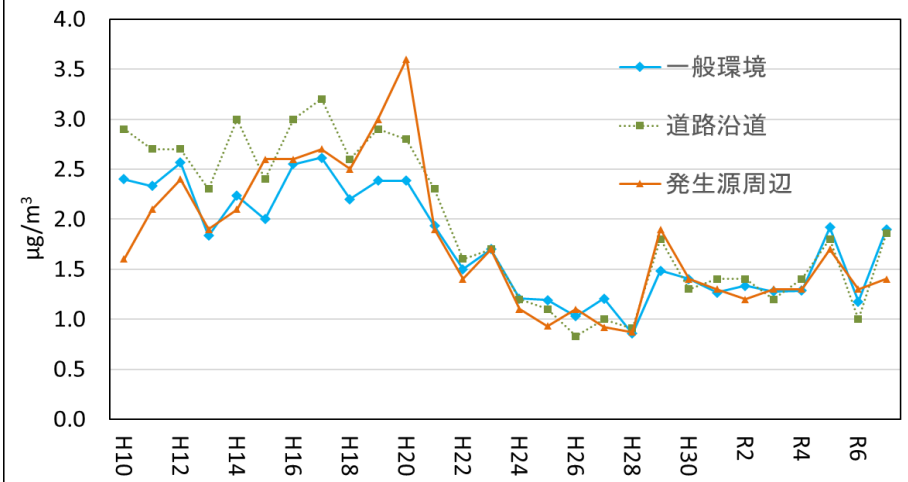
指針値設定項目(voc類)の経年変化

指針値設定以来、全地点で達成。概ね減少ないし横ばい傾向。

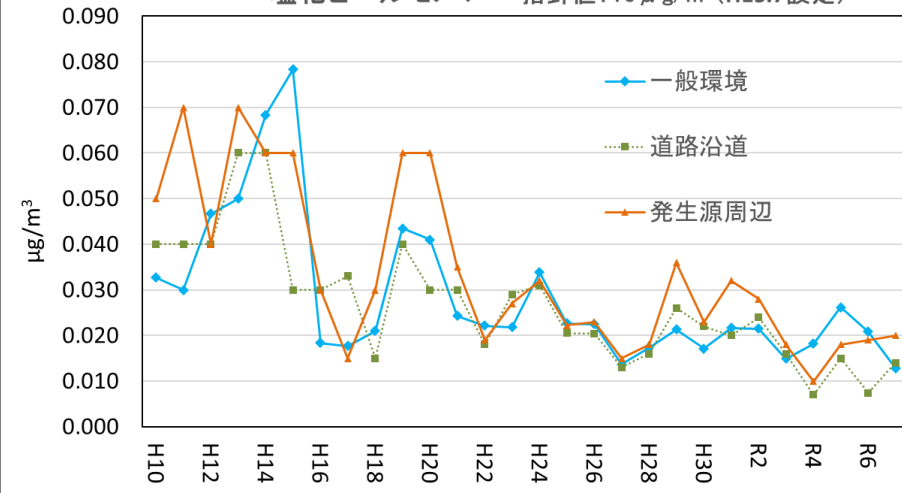
アクリロニトリル 指針値: $2 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H15.7設定)



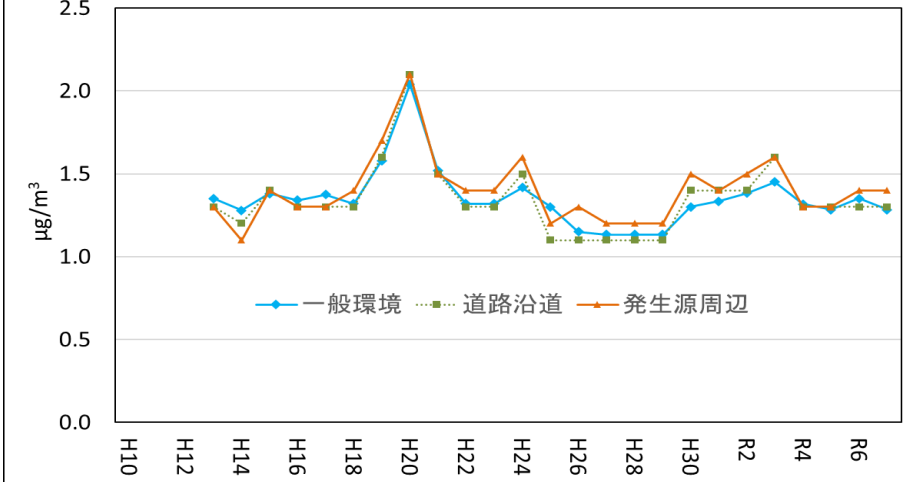
アセトアルデヒド 指針値: $120 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (R2.8設定)



塩化ビニルモノマー 指針値: $10 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H15.7設定)



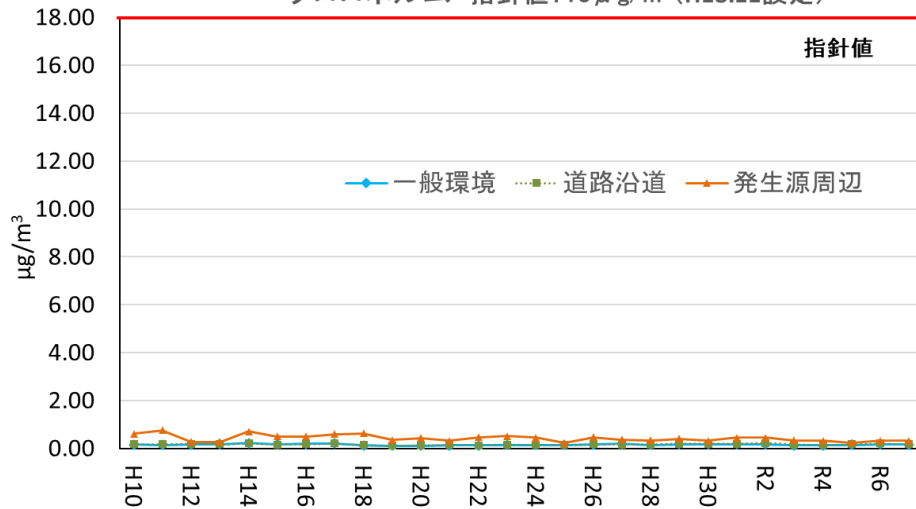
塩化メチル 指針値: $94 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (R2.8設定)



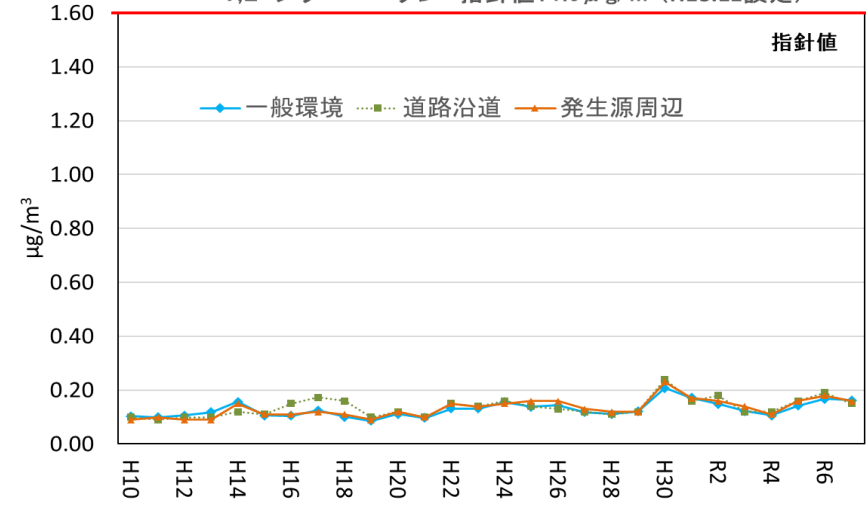
指針値設定項目(voc類)の経年変化

指針値設定以来、全地点で達成。概ね減少ないし横ばい傾向。

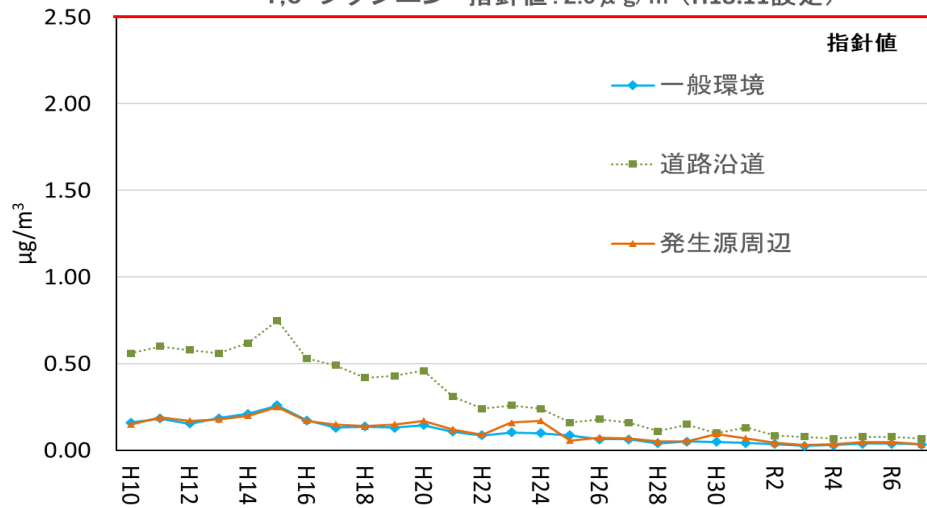
クロロホルム 指針値: $18 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H18.11設定)



1,2-ジクロロエタン 指針値: $1.6 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H18.11設定)



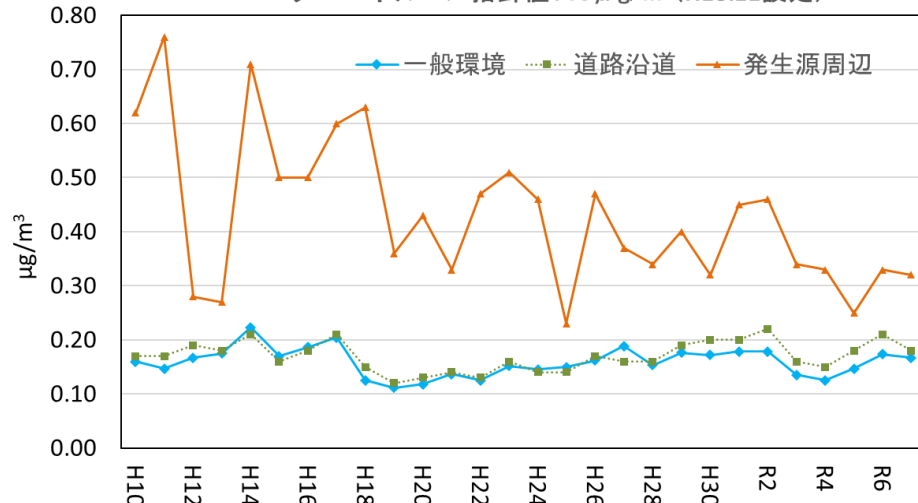
1,3-ブタジエン 指針値: $2.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H18.11設定)



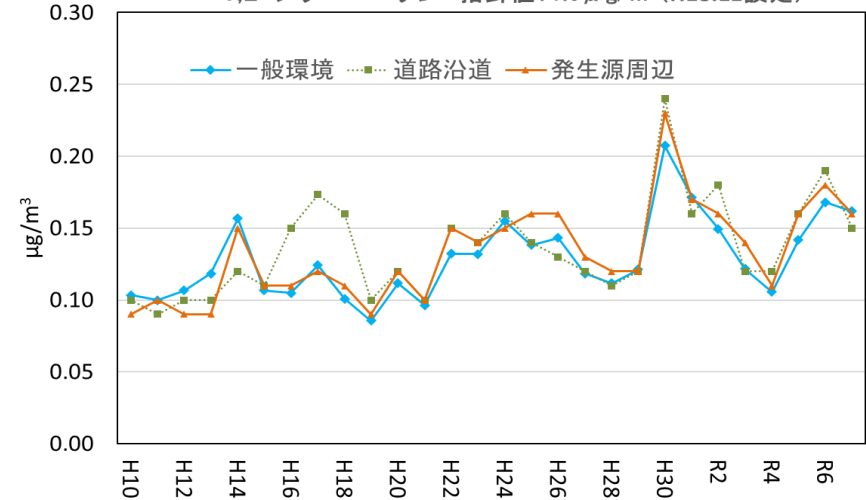
指針値設定項目(voc類)の経年変化

指針値設定以来、全地点で達成。概ね減少ないし横ばい傾向。

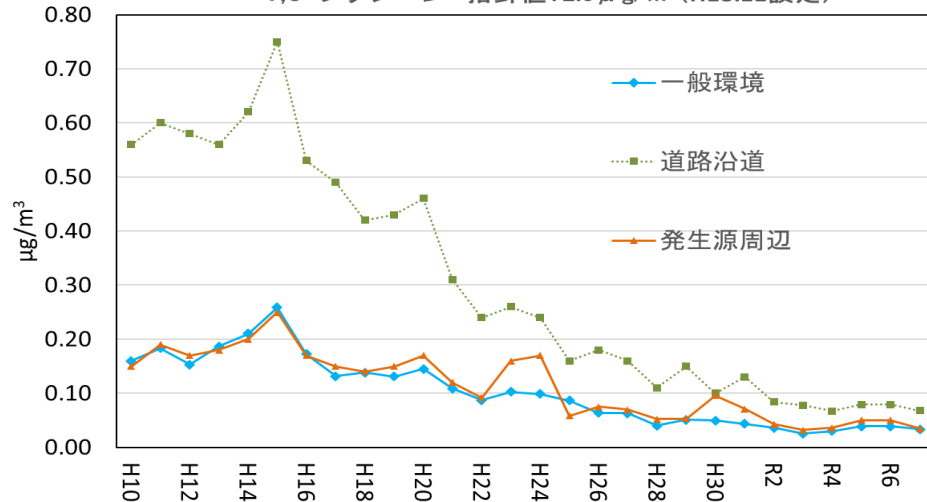
クロロホルム 指針値: $18 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H18.11設定)



1,2-ジクロロエタン 指針値: $1.6 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H18.11設定)



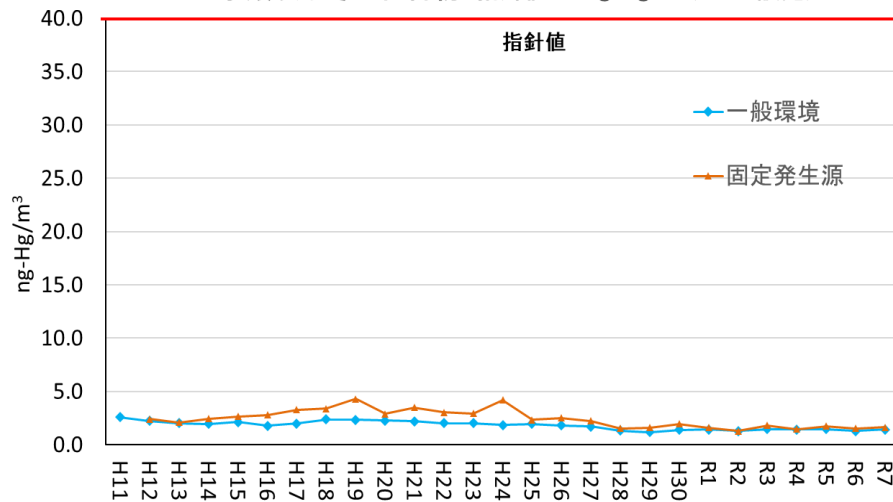
1,3-ブタジエン 指針値: $2.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (H18.11設定)



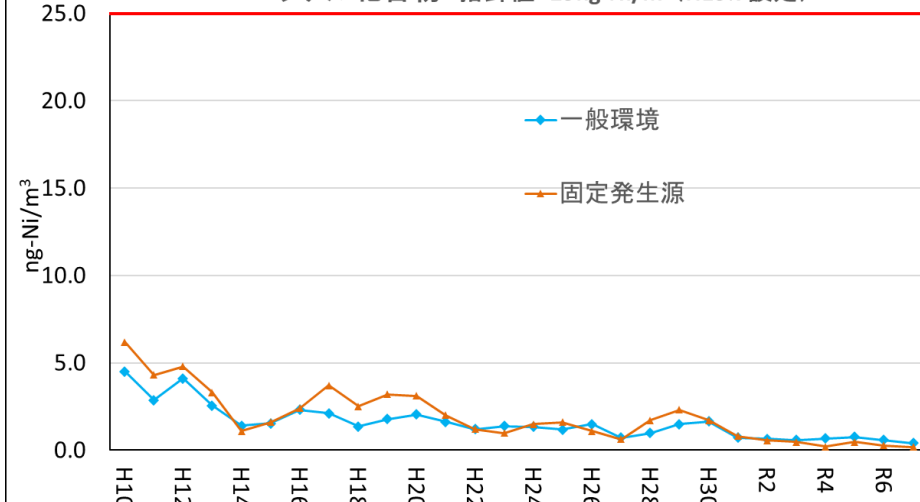
指針値設定項目(金属類)の経年変化

指針値設定以来、全地点で達成。概ね減少ないし横ばい傾向。

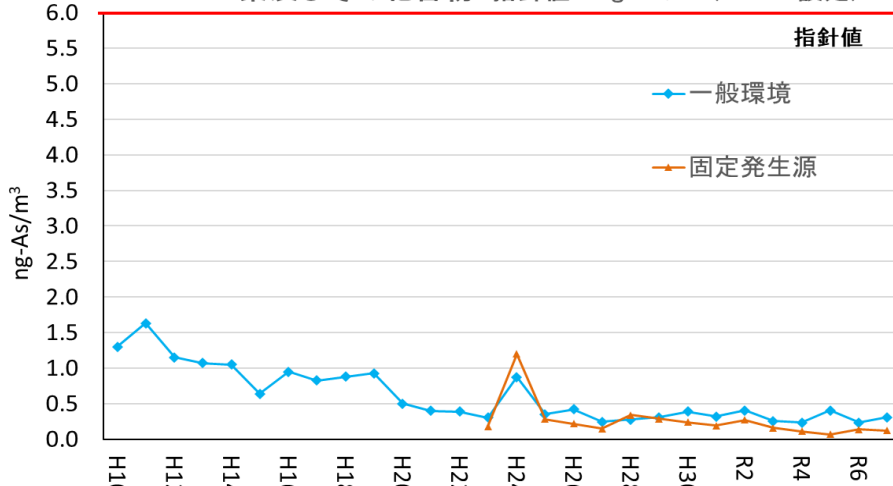
水銀及びその化合物 指針値: 40ng-Hg/m³(H15.7設定)



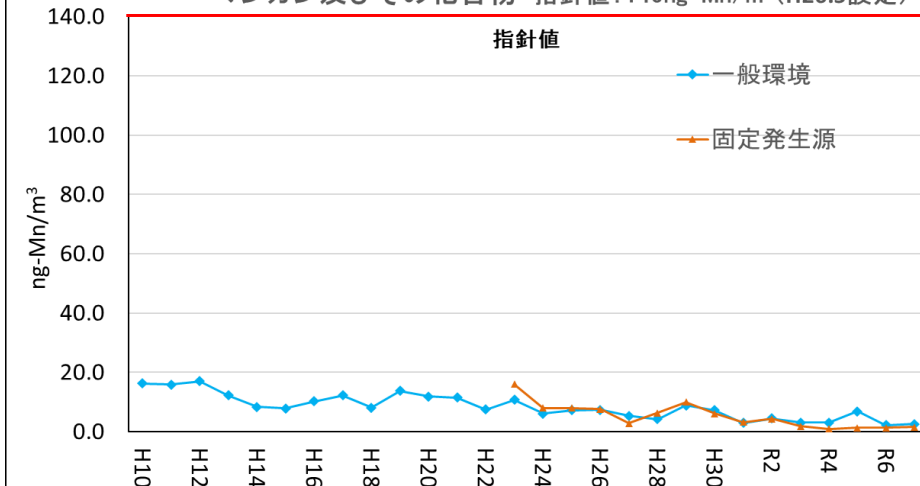
ニッケル化合物 指針値: 25ng-Ni/m³(H15.7設定)



ヒ素及びその化合物 指針値: 6ng-As/m³(H22.10設定)



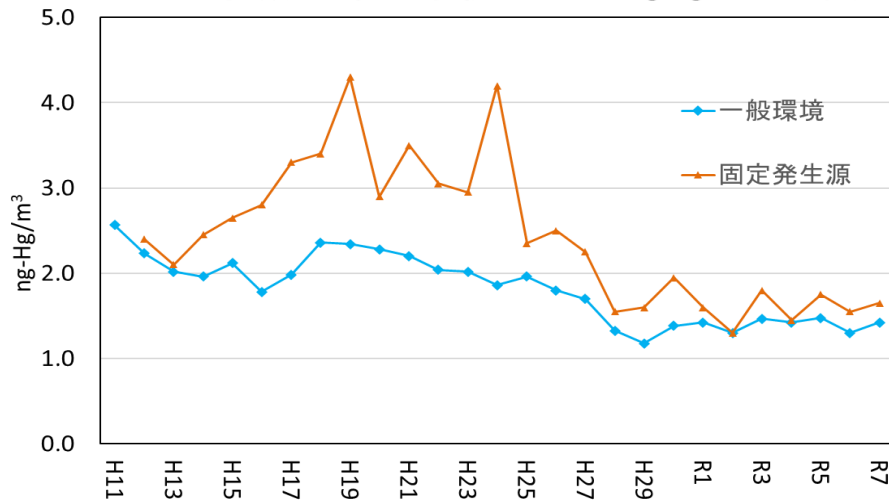
マンガン及びその化合物 指針値: 140ng-Mn/m³(H26.5設定)



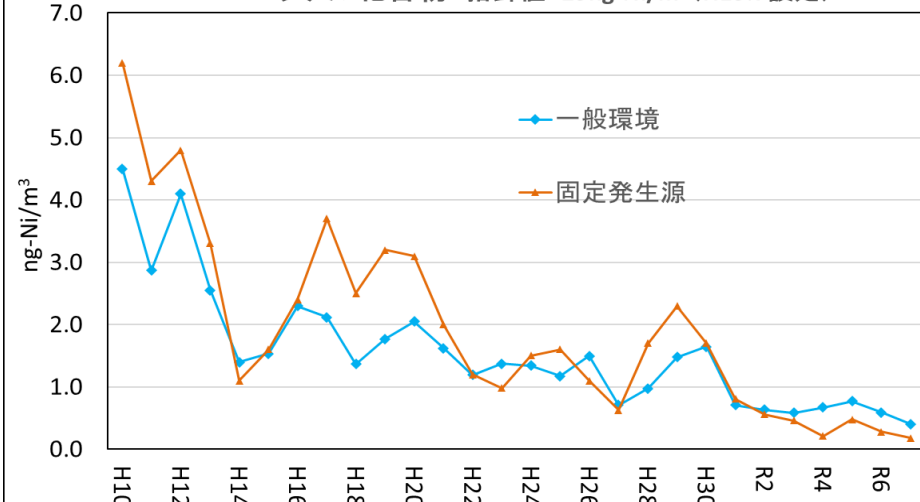
指針値設定項目(金属類)の経年変化

指針値設定以来、全地点で達成。概ね減少ないし横ばい傾向。

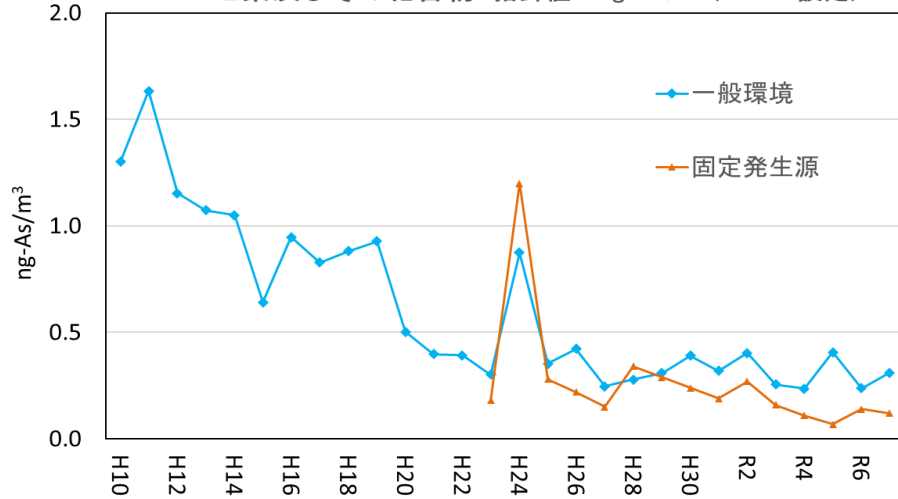
水銀及びその化合物 指針値: 40ng-Hg/m³ (H15.7設定)



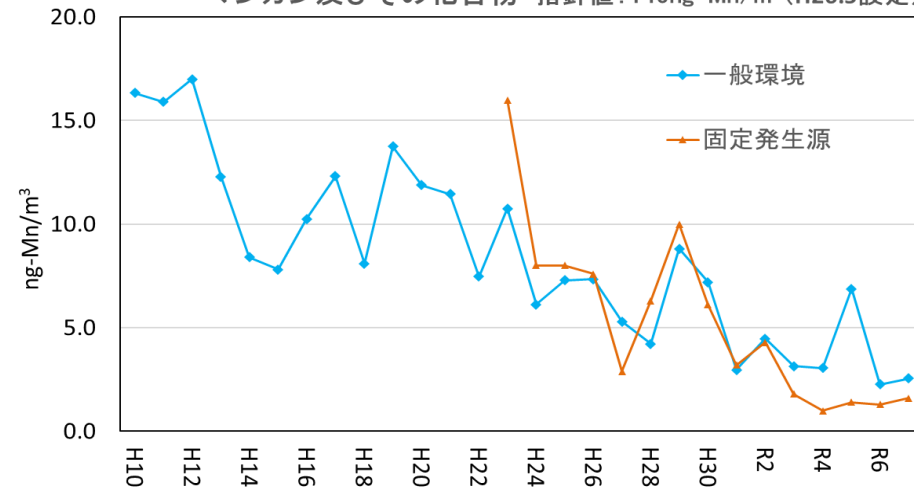
ニッケル化合物 指針値: 25ng-Ni/m³ (H15.7設定)



ヒ素及びその化合物 指針値: 6ng-As/m³ (H22.10設定)



マンガン及びその化合物 指針値: 140ng-Mn/m³ (H26.5設定)



令和7年度大気汚染状況まとめ

1. 自動測定局における常時監視測定結果

○二酸化いおう、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、一酸化炭素、微小粒子状物質：

すべて**環境基準を達成**。全体として減少ないし横ばい傾向。

○光化学オキシダント：

全局で**環境基準非達成**。概ね横ばい傾向。新基準では短期基準は減少傾向、長期基準は概ね横ばい傾向。

2. 有害大気汚染物質モニタリング調査結果

○環境基準値・指針値設定物質：

すべて**環境基準・指針値を達成**。全物質について、概ね減少ないし横ばい傾向。